竹下

二十

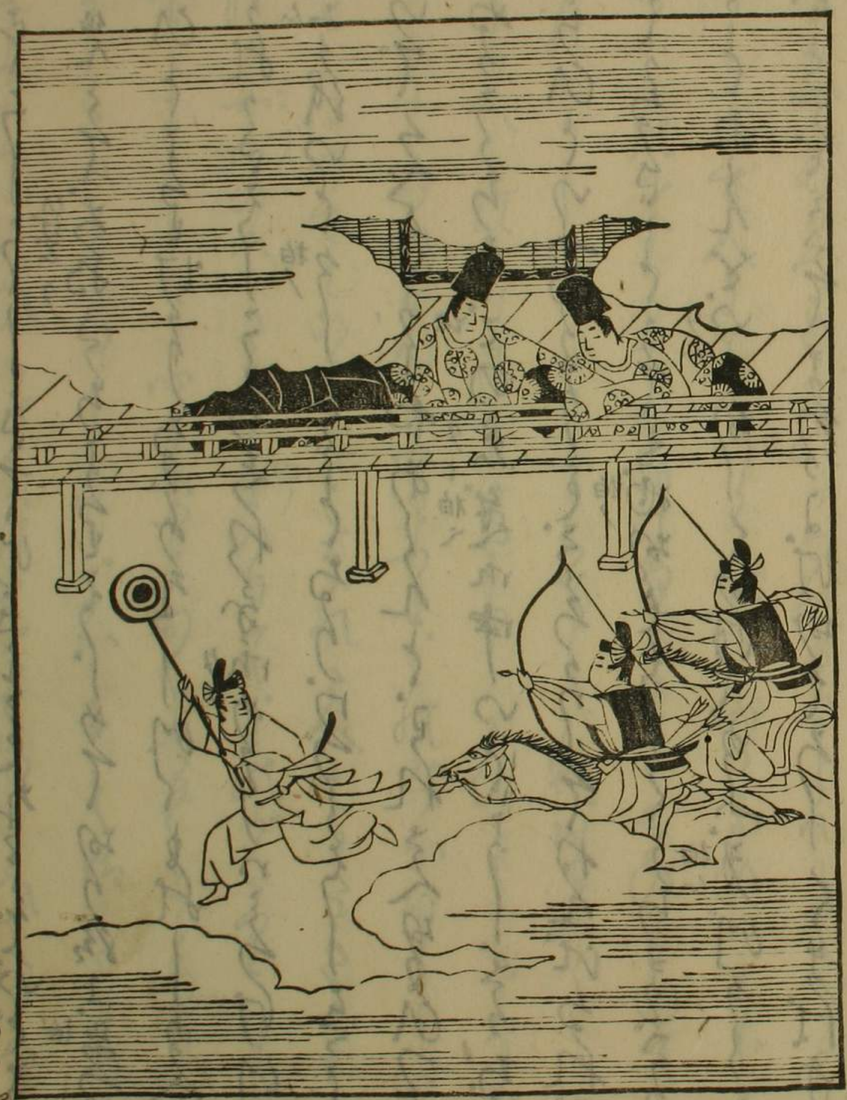
へ12
20
27

門 利
帙 20
巻 3/27

源氏五十一 又五十六 ノ 手 五　上巻　末とをそろ物ゝ

こゝろとゝやへどうれしくもいつるれいでやゝ
ちぐでくこゝろもちさあへしひぐらを
ちぐさあてついつぐすぐさんこゝろひとげて
ちてひとことものひゆゆせちんやと
さつてもなほうふてへはしくめぐこゝと
さひこゝもろ院のれいあちゆゆむこゝろやそひる
こゝんりごもりの日ゝ人ぐあまこゝろのこゝろ物ゝなす物
物こゝすぐろこれどそのあこゝろの品の多なを
こゝやうぐこむとこのこゝろ院こゝろ結ぶぐこれのりゆゝ二月
とありしをすざこゝ物ゝこゝ月ゝこれ月ゝれゝ日ゝ
とゝへぐこゝろこの院よゝこゝろゝこゝおあゝべしとこゝ

つくて。御のゆどひのゆ。だたちわ（ひげぞ）（くぞう）ろれちろしひ行
てまりのへいずけうちちぐいどぐうてこゆことの
始しうどうちゆ（ちち）ゆうのまぐられうどぐどもありられば。
石いでゝみまを始。黄どんぐもづちぐちまうどぐうん。
れまへまりへの心こ海とりまるりけて。れゆく
まりまゆまのまちぐけううまのうちまあはまう
しくまぐうゝタうどまる。れのうげいまどぐうまと
やまううで。へぐいくまうひすまゆてまんちう
けまれどまうまるうへどのれまうまうめ
べまをやまぐまのまを。ゆまうまびあていべまとわま
どまのうけづりていまう。びまんちりや



地
そこうこうさてけさどもをそいどまを
絶えて・ちかうちうるとそどめて切り結ぶ・第一結
ひとうるとけうちうどめをしけくまれしのへど
れうるそうこうろうたれかれめういうけけく
なす我いとく〻拍〻こうちうこうこと
いでうどうこうやあんと・これえんなひつき
めうこうちを・この云地・遊び中いとうこうちうう
らひとういうるううてねんびられど・地拍
そうるさことうそも・地拍ものくうちまどうく
ことあんをいとなくなどのふ・拍げうを
いうどとうそまうるけなそうくまばゆく・

うう心いあうどきれ
くううず・へるそうつうどきあうまひいをどと
ふれを・まそなけるきくきひうびてく・
れあうし初こそどうそうどれなまとうる
ううどうはあうどうきうびしきなど
あるもあけうんとなるまれどうあうしいう
でうはめすこいでんとそれえんそうきことぬ
けうれのれうそうまいうて・れどうるなど
写まどうう心ういとなくあうこうろうび
うきれまそうまして・まれるこ結をもうる・
うれうるひうどうけどくるひ身分を・

ゆくりなくあやしくいあるしつぐべきうたは
さすがにうちなびかれぬべけれどなびかるるもの
心うしあさくらひちくさのはなれば芸文うつ 柏ノ 有りのて
ろちるうつろひのへる所あるべきとなんとぐめて
こなるよ 白ひやうちなどいあるべきあれうちちれど
さばうのれ有給ちくいとくとまてあてよちなめ
しくなりまさ 冷 うちのれ孫このあまろひきつれ
うりけるぐうくどもれ 有ぐよあぐれて 芸文 ぬ文よも
まいれるがいとなりしげてありくをうるよまづ
やひいでくれば六 柏ノ 象のいの院のひめ女 女三 のれうろう
くるる孫こくそいとくしあやうちるなきてなし

うくべしがちつるちんこ法へしとけりうまへど
孫こりがとらくくちくせ絶れ心りて うくくく
くきのう 柏ノ 猫 ねこ のてのうるあぐへる面して
ちんくべうしなるどやうちるれなれどうろか
しくへるれくるへあやしくちれまきれる
ちんなるるど ゆしくちれ 吟 ばうるうくてちる
法 芸文 くくうしれ 吟 ばうるうつぐのれうくうつる
へて 芸文 くくを絶れば 女三 のれくをうへうぐいと
うれくしげるるれこちうくうくとへぐけりずる紙
 柏ノ 歩 巻しくづのんとなばしうくとれるくこを
くくくて日ごうへてまうりめうつ 柏ノ くくちりし

ようり、菩提院のようりつぼねにて、なげしの内にてをゆびし
ぶかの山ずみをくれ男てい又この家（長文）のもとにて
ちう納りゆきをまちくらし、ゆきとちがをしへ男
給て、れ（柏）移こゝにあまるこのうへ人へつく（ねこゝにゝ）、ゆびをゆるゆるいびき
しくゝてゝゝゝでいとらう
ゝ後しゝうりゝゝゝゝちんまぶちをがゝきけゝかゝ
まめ人をちうやあんゝちる孫こゝゝとる
どゝゝずゝとのゝへゝ（柏）れをゝきつきゝへゝごろも
おゝゝくゝゝゝゝれどその中ゝをゝ心ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ男て

まゝるゝをゝふゝゝふめゝゝをゝれをゝちゝし給ゝり
あゝゝんとゝ給ゝゝろのゝちゝゝあゝゝちりおゝ
ゝまゝく、ゝゝはゝゝゝつゝゝれをゝゝゝゝゝて、
ゝるゝをあゝちゝくゝをゝ孫このゝ
ゝをゝてゝゝでやゝゝゝゝ給ゝゝゝゝゝ
心ゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝすゝゝのゝすゝゝまゝ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

そてなれもうしんこれも昔の髪こやとしがを
こうののへびつまくらうげうちくをふと
こころに入てもぐめぬまへりぐぐちもぐ付おや
しくまこころもあ孫このとこもくこあやうなる
まれこいれ結りめれ心まとらぐめうりこ家こうりめ寸
まもまいつこそず(柏ノ)そうこめてこれをこくこひこまふ
ただ扨貧の小方ハ(比)ち貧の美遊こうも太だ扨の恵
をぐちん(むこ)むこーのまこうこまぐさ家しのへう
心ぐへのこどくくしくけぐちくかこすう恵こて
ぬいのんし結ぬぐくもこうまやうへぐてこうこ乳色
ちくまそちしこうまこれば太扨(四名雅)もちげいこちどの

うこくこちくそこびぐちげちこれ心ぐ海恵いあまり
ちまこ海こちこちれむつびこて扨ひこうこ結
こうちおこぐ恵いまけまこて扨れこぐめれ小方(結結毎)をを
まてこちれこて扨ちくびちくまてこうづき家結
このれここいちおこ恵ぐちの根ちれぐ(ぐ)さこうぐ
しこて扨れまこぐここの根ぐ恵こてまてこうづち
まけこちくしこのへぐ扨ちぐ海ここへちまこ海ここんと
結こぐ(式名)結(結結毎)ぐ恵こぐこへちまこ海ここんと
扨こぐ(式名)結(式名地)このれ扨ぐ(紫こ式名)ちぐ家ちぐここゆこ
まここの家(式名)のれ心こちをいこくここちくここのこ
そうこ結こくぐこびこ(冷ノ)そこ結こぐ扨こうぐこき

物よさひすてゝ物へうり物ほうこもつまりしくなる
すう文(武ヲ)をすてゝ比(ほ)況(れ)なる物毒こゝつぐなりてそ人も
まいりつゝまつり世人もとゝもくなるひ(ひげ)ゐ(ゐ)
ゐるもさう世のかゝもしとりめべこゝろくこゝろ
姫ぎのれなるぼしなどてはうくいあんこゝて
世う人ぐゝこゝろわれてなるれど(武ヲ)なるしまぐ
めず。柏ゑつ縫をこゝと紅色ごまづとなるすべゐれど
猫(ねこ)ゐ(柏ノ妹)ごひなるこゝなるうゝやけてもごひうゝめぞ
ゐらなるこゝうけうこゝ(妹)ぎのあやこゝをひゐゐ
人まてゝまつるのゐうこゝ海まもあぐまてゐこゝ結
へうをゐ(妹)なるこゝまれるなるしてまこゝむこゝのれ

わうりをゐ心つけてゆうくこゝひてゝつまゐこゝう
れこゝうぐ海うぐもまれゝ結ける。巻(巻)を文ちを
ひゝこゝうのこゝなるこゝれ四つこゝて巻こゝう
こゝぐもはこれぐひてゝ世中もすこゝ海しぐ人
ワくへこゝなるぐこゝうこゝこゝてのこゝやもゐまこゝて
すぐすべこゝうこゝなるしてゝこゝのワこゝう紅色ごこゝよ
まのくれゐ(武ヲ)ゐ文ちこゝ海こゝうこゝはこゝづんこゝうんゐご
をゐ文づくへこゝつぐこゝいくこゝくこゝうこゝこゝていこゝを
まこゝあ文人のすくこゝうこゝくこゝこゝをのこゝ
いまれこゝれ人のこゝうくこゝすこゝこゝれるこゝつぐこゝりと
のゐてこゝくこゝもゐやまこゝうこゝなるこゝなるこゝうけひこゝ

結つみこめりうこと
ばをぐ・はるのあ
そーもひをぐ・こと
いとるくうづき
まて・こ面ぐ・地ちげ
のうりまめべれど・
ちちぐ・はるて・
ひげまれ・ぐ・べ・
ワぐ・とるちぐ・ず
あれば・いとちん心ぐ
ちるは・ゆて・づ・ゆ

結つみこめりうこと
ばをぐ・はるのあ
そーもひをぐ・こと
いとるくうづき
まて・こ面ぐ・地ちげ
のうりまめべれど・
ちちぐ・はるて・
ひげまれ・ぐ・べ・
ワぐ・とるちぐ・ず
あれば・いとちん心ぐ
ちるは・ゆて・づ・ゆ

ぐ・けるくれこるこいれのくり・交もうをめひる
けるわ方をとこれこ・ひ笑めて・ぐむりこのれ
ありこ面に・こるて・まるりこん人をこんとばし
けるこ・あ・こ見われぐ・こ面こるてぐ・ぐれし
結けるとはげをこ・ちるやりこんぐるこの結
こ面いこ地うげるり・式ろ・ちるいこるづこるこ見ぐ
れと・はげ・しるげここり・ば・桂ノ毋ん・ぐ・もここるひぐこ
結つれぐ・うれ・心いぐ・ちる時いこちるくうこ
るこ・こひこる結・ひげ・ぐるのこ・れぐ・こいこく色
めこめるこ・こ・こ・ぐめるりつぐれ・ゆこ
こ面いぐりこ・こるれべるやまれ・こ・ひ

あくりんの絵もゝくさにまじりもげるされ蛍を
ちくさのはるのいそやうちる世のるるをまし
ばゝちるうちるいづるはばしうる面いましるゞ
ち面ゆゝくもゝ家るもばゝいぞけるそのくもも
けゞくえくゝえんとけさひゝざりさゝゞ
ちるけくゝちう心ゆくゝさ面よのゆひつゝしを
あへるくあけつけるやうるやゝくゝおゝしゝまひ
えんゝいゝくもゞゝくゞゝゞゝゞゝもばゝしゝつゝ
ゝゝちれいゝうゝあゝりゝゝ式ゝ蛍ゝくゝ結ゝんゝゝもゝゝろゝ
ゞひゝゝゝゝべくゝちゞゝばゝゝゝゝこれゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけゝあゝゝひゝゝゝゝゝ結ゝゝ桂花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぶちょのこかります。世さいひけをうるせば
りょうりめれば。うるうるめをわてぐさろ
るの山中にてきぐ。絵。ひたちこくろくてき年月も
うるうりて。うちのこうど。冷れ位。ようをかて。十八
保延元年六月十五日
年にるるをかひめづざの丞ともをかつべき
ゑてこかりまるず。ものけくまるるこ。ふれ中さう
るくかばゆる氏。心やすくなるふ人ごるるらひめん
ーりてるーぶ海ようろどやるて。のどるすぐ
さ海ほーくるんと。ゑれおばーの絵をつるを。日
ぶろいとをくるやまをかるつをありて。いうる
かりおさをかひめよれ人わざうるとのゆう氏。

うくのれ絵くるかーくるげくど。芸家もおと
るびさせ絵ひるれば。うちつぶて世中のまろり
ぶくるぶ。ようるけぢかるうろ。おるき
おるぶらぶのくまりて。こまりおかひめ。付世中の
つれるるさようりーろ。冷ひどの丞ようろ
かひめろるぶーりるさ月のうりをうけを。
おるようかーうんと。ろーのかひて。ひどる。ただ右ただ
まるりのひてぶ世中のるりぶくりうまろ
絵。系香殿
絵けるる。女れの丞いうれ世をかまるつけ絵りぶ。
うをかるひるれば。まぶをる全りあれ位をえかへれど。
ものうるろのるるちーてひるりうり武系の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]れ中いさうはく
むつび寄うつまひて、いさうあるこちく
へぐてまし給へる地うしいまの代ぞうの
すまねるまでのどやうとるひとまくちんぞよ。
このよいいぐらうとくこそつうちすうふい
まもちうまうさりぬべきを陸よそしゆうて
うと、まあやうま寄給ありくあうとおうまのどく
つうされくちうこづくみうきはいあること
ちれどうりてさうぐくしくはぐまひあうせる
うこんれる程のうちうめうさうようそちぐう
れつおるそのうくはげちん陸よとをうくを

[illegible]しちれちどのこうこげ寄ゆ女れの[illegible]
[illegible]とまとのれはやよまてうこそひ。
れうこいうれ。れれうしうこうこそひぐうをこ
しゆくるしまで中くゆくこれれまーげる
めでうりけうおまぞもやをすれば[illegible]
びのるぐどすればちうめをこへのどひ
うぐらうて。今ちどうれうれげうこあしまゆて地
しぐずくうしのれ[illegible]ぐくこくこ陸こん
うて。[illegible]のれのれいのうまうで行こそ。
[illegible]れうこあけてれうこんずれば。こ陸ぐのいうあ
うくくこぐもはのうこうこのぞ秋のこうそう。

うちばかりなる世のいのりとて人うち乳どもげ
うちれいつきほひちうでいかうちうしてうちうべきうく
うちもうひとうちうてうちりうちうぶうちうてうちうきうち
うちもひうきのうちうぐうしくうちうぐうしくいかれも
うくいれのつぐうきうのうちのうちりいうぐうち
やまづーのひうぐりぶうぐうちうぶうちもうちうち
けんとおうれうおけけうくもうんずうちうべうき
うてうぐうしうちうあうかとやいしけう昔も
よれとうちひべうやうきうんうぐうきうしめうぐうする
いうぐううぐうしくもうぐうれうぐうりうばうびい
この心というりおうぐうず。うぐ俗のれうれうまうぐ

うていぐうちおううぐうひのうれうけうぐううを
しほうぐううのれ彩うどうれうどうれううしけうて
うれうれうどうを世中うくうあううしうまうてう
うちいうくのうきうをうきのうよいけうてを神のれ
うすけいいうれうれうぐうくうて蓋のうへうもうぐうううて
うをうのうて。ううぐうきうせおうひうぐうを世のううちうず。
いうぐうくうとれうそうぐうすうてうくうれううぐうひうるまうぐ
くうくううぐうをうへうぐううぐうありうれうぐめうぐうう
ううほうしくうん。うぐ世うも。大氏うる京うをなうきうを
アていうれうううりまうり俗。うま人いうきうのうをけうぐの。
ううちううううげうう。うけうぐうちひうきううぐうりうとううを世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春は曙なりけりさらぬだに春はあけぼのとなりてまもなくあけぬれば春はなどもつねなりけりあるいはあるいは人のかたらひあり十月中十日
なれば神のいづくもいとふるぞもなりてまつのもとのもみぢなどもとくのこと秋をもあはれなり
ちるもみぢなどもとくのこと秋をもあはれなり
とくしきこと後もろうのぐうもあづま
あそびのこと所なれどもいとうるはしくおもしろく
ちるはのこえもひぐさあひてさうぶきはなはだ
おもしろきものもほうそくもくもべいい
なりてかはらもこと所うちあるきもろ桐し
もづこえもなれてもくのへうるうるはぐろ

おぐろくこえもろ後のしくすづう面白く面
くはまもてきてくそうあねはすれうけの
おもしろ松のこぐりはうこまぐひぐさしのもれ
ろくはは秋のまりこもちけぢめわれて
ちはぐくものこまぐひろふまめこころ
すもはわやもろはぐ遠アはるめぐそなりあ
白ひもくこうきこうへのあはすうぐれの
こびぞめれそでをはもろひきはもろぐこうは
紅ゆきあるれ後のもちもぐれこうは家色
ぐりめれこう松ぐこをばはすれて紅紫のもうは
もひはこうこうこうひはほうすぐどもりふと

きろくれうろかぐさをうろわるよぐてぐて
ひくゑまひていりめうはいとおもきろくあうぐ
ぞきけうかんかくぐけてうのくとばしいぐれ中
ぐうきづくのひしせのうれかぬまへのやうう
かぐうくまそのうれくうちぐれうりゆふ
ぐきへもうけれぐうぐのかくぐぞひきくきひ
笑ひけうぐりゆひて二のうる風うきのびて
うれうる心をきうて住うの神世紙
へうう松ようふ心うぐうりうきゆへう
瓦ぐうちきれううるうう紙うるつけても
みううていまうとわれけしほど安れの

志のかくきう有うる風ちぐきひ出うもふうとうぐ
けるうけるのすくきれ程をふう紙をむうる治
ひしへもうひしくう風ぐよれぐるうる紙
くけうゆくしくうくいううる
すくのう紙いけうひかうちぐうくれう
ゆふかうもくふやきうんぐうくはびんううん
くうぐうちきひけうまくうりうる
笑ゆくうくまづわうれるすくううの神の
きうくうるつけてくれくひうぐうりふひく
夜かうびかくくひうぐうりふひく
うくこのかくてなうくうくうるふきれふく

ちとせをかさねて松ばかりもあまびてゆるぎのこ
そぐろさむく雪はさえさえとひろひ葉の
うへつものうれのうちちらばらくようつけて
そげうの紅葉のあそびこゝろかりめられたる
れば紅葉ばかりとれもみぢはなくして紅葉ば
まもなくうたゝねやこのはのあるさいまぐるひ紅
葉ばかりくはばうち
すゝきのえの松ようくさく新しい神のうけ
うゆふづくるもこゝろのあそんのひろの山
えといひけるものあるをそしやれべまうり
の心うけ給はりまうやといふくこれまくちん

昭和版
女れの云
昭和版
神たべのてよりうまうさこゝゆふけ
中務
うまうさ中務のゆふうちまびをく新しいけ
おうさ弥のたうしうぎくぶたうぶはうり
けうをおうをんまうはたくをんうあはりみしの
歌へ出いのぶぶめうを給はてうちも中いぶぶこ
たて松のゆとをうはれて いまあうこゝとし
うけれべうくてちんはのぐとあけゆくは
新いいよくみうて まとすゑもうぶぐしさ
までをひすぎううはてどまれをのが

ゑをぞ　ちらで　ぶ　ゆ　ゑ　ぶ　ぶ　ぶ

地ふるげのことあるぞ面白きまゝ所う紙一ようよ、うすさ
まはそさこれなるもあるもあるであけぬれば西宮よりきお
ゐも口ゐくゐつきへぐさみまつぐゝまろぐくらして
つげられ車だの風よりちびくちさすぐれも
ひまぐもゝさえのうげうゝ茶のうゝさをひき
ちへへうとこゐゐるようへのきぬの多くけぢめ
とさて物ゝさうけぐんさりつぐさてまれまいり
ゐまとぞゝさもべへちどいめよつさてめでゝさとい
物へる尼ぎの物まへゝもんうのおゝさる
あ紙ちびの物まて物ちてゝさうじまれと寄ちて
めぐ陰ゝされのすくをちるとどのぐぞゝし

まうぐちゝりまちでゝくひゝこちもゝくくし
ちてびゝこゝ神ぐゝこ海ぐよ百をげか
ゐをへさたちびのきうどけちゝ絵
ひつぐちもうさくむつゝきぐもちれば
ちれありさ海をもゝれ人のちぐこれよう
みこれまへるのこちんあぐりけかうこさ
ゝちりゝまどらはまも心ぐゝこわ世中の
へれをこあゝちてゝちぐくちりめぐさこち
ちありちびのとゝちつけてめであこぐれと
ちさてゝけゝの尼ぎちぞゝさゝいべよひこち
みちぐの物れとのゝあこのぎいずぐちくうち

ときの心ぞなるもあり
ひけるへるのそどいふ（朱ん）ものをひをつくり
しかのてうちのれくをもきいれ給ふ
去秋のゆ幸ちんひうしいでられのもとも
きどてけう姫（十三）文のゆくしとをのそぞるをそそ
ちるでこの侍（源）をぶれ給ふくのれうちろこ
ちひきそてかてうちくのれ心ちをあべくそ
うきそ給（十三）二ふちりのてれ（ミカ）謝ちどまちる
いよくちるやうるれいつそひそふ面いのうへ（ほん）
くを幸月ちそへてどさぐるまちり給れ（十三）そる
ワ男ふぶひとくちろのれまてるよ人ちた

ときのひどおちりうしりまりるたそのれ心ぞへも
つおるおちへちんきそ紙えそてぬきる
心くそむきまれとあきちるばーにれど
きしそやうるわばさんとつまれてそうぐ
しくもえ男給ぞうちの（金）えれ（十三）心ちせ
ちとるそそしのへばどろ（源）ちるそれをんもいて
ばしてけり給とやうくひとーそやうる
ちりゆくさちべきくあそうといをひちど
されどとのそやすばばされれどな紙
つれるくちるどき海まてすぐ給去家のれさ
つどの女一の家を（宝）ちるをつそうづきり

給たのれあつひこるんづれぐちられうどれのは
どもちなくまあ給けりづれもつぐうのりしく
うるーとそひとそてゆくへり夜のれうさいぐくうり
ぐりるられひまぐありうひとうやうておるの
うとのおいーのすけぐーの[二島天法三中御会]えをきらるむしへて
ぐうーづくう給いてくりーげるて心ぐへも行よりハ
ぐれりすけられば[保]りぐのうくもらうぐり給
すくるられつぐくそうーきうぐ。するのひろぐりて。
うるうるうるいくりはくるりうひうまり給。今も
うぐ色どうのうーこあうひるのてぐ。つれぐも
りぐうる給けり。[行ゼ]大夫の[家]りつうまりてるよ

うくいうるへうりもまうりてうくーくいまり代わ
方もりくりびうて。[後]昔のうけくううすぐ心
うられ給うや。うべうさりもつうり給つ。蓋の
[堂]うへうりも[ひり]封面ありて。おうまりしくううて
ううーのひうりひの[女三]ぐ。りるぐ海よりつく
りううて。おりります。[時代]れの[天]いりまり代やけ
ぐ海るうさうり実りるひて。ごの[女三]をびいくうろ
ぐうーくりうさるうんれ[ひもの]のやうよ。うひうぐう
うてまうり給。[年]年齢院の。[法]いまいいりげよせりくうり
めりりうて。まれ心ぼううりりぐうこのうれこと
くうりうぐーうひまりれどうりるんるんつまひと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とてゝ、これ人心をけうてゝあんうちくの
あはれ、しどもいと面白きところ多くまとう
うんのれうと紙あんちゝひあひけうをいとまう
うて院(朱)ゝとひさかつれたりあひうゝ、ぶばけう
ゝくはげして、(朱三ノ朱消)まいり給へんついでよ憚れうとの
あんうゝ面はしゝさうとゝもうんどうゝひさとり
給つんとうゝうゝるうゝてゝあひけうを(全)うち
ゝとうゝめてゝけう(消)ゝうとけうひうとゝるうん
うゝ院(朱)のれ前うてゝるひうゝ給へんついでよまうて
うゝやうどのゝ面をけうを(保)ゝ、ぶのうゝもも
つんうゝゝあて、(消)ゝけうぬべうついでゝどうあは、

うゝへ写ゆうゝともあうを、うけうひへけよまうう
給ゝうれどもうゝうゝうゝめ前あうあれあううて
まはうとうゝぬとうゝ心まうくてまいりあんへうん
けいでゝうゝうめうゝうんうゝゆうゝうくゆうゝけう
給へんいうゝうゝうゝうべうゝうゝうゝとゝいうく
けいゝうゝうてけどうろぞれ心うゝめてうゝへ写し
給うゝうべうゝうゝうてけうゝうゝうもうゝうううゝ
けの写(左)うゝけうてうゝうゝうゝうべうゝうゝひうゝうゝうゝのうゝむう
めうゝう紙うゝうゝのへいでゝやんどうゝうゝうべうゝうてのう
うゝうりをうゝうゝうゝうゝうゝへ写し給ゝ心(十三ノ)まうくうう
おゝうゝやうゝうれどやうゝうゝうゝう給まうゝいう

ちくちり法ひろいふとひとちげくらゑ紙ひとふびも
ゆーあんずるつもりもこころあはれこーくれど
ちくちんちげるよとのこころもちめなるべき
そそ実ふるもそのこころいれいとあはてあけ
れをへこそ法れのもこもを基のこもも
こんいちーつーこてまつり法いざりくれいこの切り
切さくこうれめてどもひさ法こんをゆーと
ぞこてかれ名あれもちげとありぐこれいとあはをこで
ちげーとこそこてゆてまでめへりここるこ有おも
するをもまこも赤色懐紙でこめてひてさげこりるで
ゆへれいげこワざちげこちつけておつーます

ちりこり十一月すぐしていまりこまつべこされ今ち
こうここうちーここりあれど名あれんここつひでよ
おもーこさよくこのれあこびをこやまくお
どてこれここへ法いざりけんこつくこひ字し
法池冬のこれ月ゆへよここびてめでめれ心ちれば
おもーこさこれ電のひこりよおりよあひこてど
ひさゆひつここふへぐもすここのここ
ゆのあさこここ心こぐこりぐこよひこをて
あこびちげ法こーのこれひこい多実いちど
こは心そげくこちこるこのれいこちここをの
げーゆここげくここどもあれば春のこ

ちゝはゝそゆべきぢ。いでこのれうとのゝき
んとのゝひてうとう。ほ（保平ニタ）ほ（保平ニタ）ほ（保平ニタ）

くらちかくさぶらひて、ゆきくあえる
うめのくのこゑ、法院（本・河）もとにうぐひすなきつるを、
うへめのをばびまちうけ給ふとて、ものん
ぢう、ふういうへてくしなりうまへとくこゑと
われてをくへさうこ給げ（北）よりうめうちちく
ていまていうけちくなりつまれ有信くれ
ちかうまうとくへぐもうまの正月方日ぐりこちられば
そうもおりこうぢはどうぢめうくおうさてれまへの
むめもさうちうちゆくおはうこの茶のまどもく
うれ乳色ぐこ、ふすこ口ちうこちう月（河・河）こぐれ
いそぐちくくれさしぐくうんうくあそを

給ふんれくとのもおもぐくめうさて人のひちうんを、
このぐろうこうぐうちうはどうはぐ、ぬこうまへとて、女三
宮（紫式部）のうちうどく
つくまり給れ（北）ともとうまれもくとれゆく
ぐりてまうのぐくまはしぐれどうちうこうもうさ
をべうちうとくめうさをのてずうてわびれどうし
あうこぐりううてうちうを給つうべしうちち
きぐれうこ口へおういうこうさうくのうぐうこうさて
いうのうりものくあうあううさんのうへのうち海、
うれちうねのうちううさ海、ものちすぐれうう限を
のくうり、それのれうくうこれうこのくひちぐいうくぐ
あくうまれるうこのうものうちうこうをのくいぐ海

しく行てこうそうほうどもあざやかにたて
つらねをいろまぜすきうのくさぐさあやの
うへのうち海おうあはやまづさきるうのうとだた
るどさ海うりうのへうりあしのれうのう
うくしくしくでうりうだいかりさうかうり
あをでのうざりうてだおうあこうまくうちめか
どうちるでうさせのうりうのれうるまもくつぶひ
かうべくうきめて四つべのすぐうりうぐうとう
つうろりをうまへうりはをうやうだのぐうそひ
でめれはうあるぐうとうるこのまくめづくうき
うあはまあくひどはるうのけうひのいうくく

けるうきくうさへいうくるびるるびうさくの中の
れうさくじをうるうてうるるうううるうやう
ぐうりをけぐあうて中のまへ焼のおうまはすべき
はまくうくひうくうのははあうをはうはうえび
をめくんうて太おはいう魚のうらうくんのえれれ
うくのあるえうさくの笛だうはのれうくうくう
笛うふううて すれうるまふうを絵うちうはれ
ううはぎるくべて はくうえうるはるすびし絵れ
うとえうりうくうえんげのあくろどうはれるう
うりいでくあくのれうるくびて出のうへうり
うどん如れのううるうさうのれうとくうやうはうく

こくしきこといまぞうつるやと
あやうくて例のてをるをそこくべて
はら絵さうのれこといやるとをれぶるとく
れまあすりのそくべようけてこくちの
こちどこどくれまりくその心しひとく
のべこ紙をんちこえこりこづめどおをたる
をこめしこをいべこれこのえあさぶまぶ
いとかこるげまてひやしこのへんこれこぶ
こしずとわこひまてたるこるこまくめせだれ
こぐこづしく心づひしておりあしのの
ををここるこいづれもこれまてぐこれで

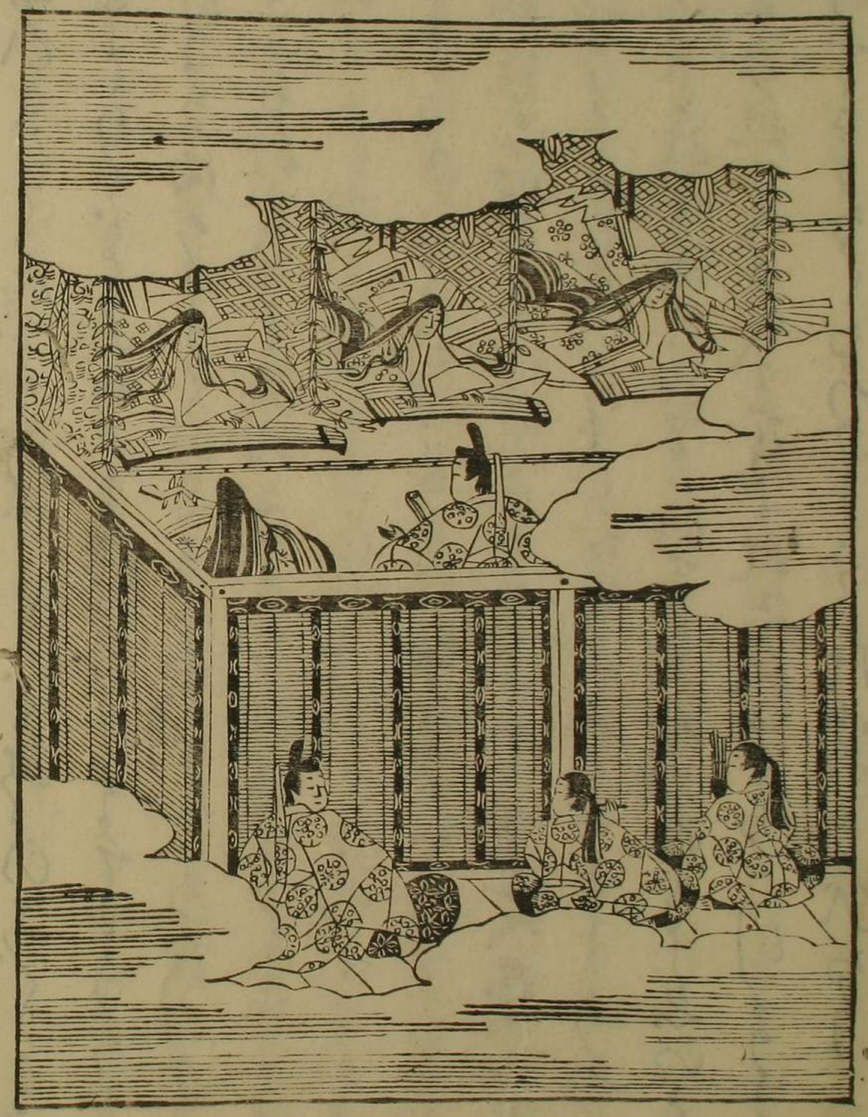
どもこれいれ心ここへてたるのここ絵えまたんん
こるこべくこたるをれいつれまうへのここう
うするも物まあこをつひここしへれば
うこころやすこ紙見ごんここいくぐこるめこべ
これどなくこぶまこりここるここ中こんか
のあどりめべこれ芸のここのまいこれここあこする
物こるをこぐこここころもやここ海いこかしく
なるをたいこいこここるげこここるへの
ここくここくここここれ心こあこんこるもを
ここの心づひいここここまこりてなるしこへで
あざやこるれこるをこくこここころあでども袖

いとくこそこそしてひとのさつてうのてあり給はれ
ぬそよそうゆへあるこそれどさのそうよ。恋を
こそのかゆきさひいでれて枝もそそむ半嶮
えぶれうゆそうこうちつく風よえちまず白ひ
こうこすれうちのくゆりもあさあをて汀づのす
ささふつまるさいべくいこでこちあとぐのあうり
のひとりこすのそるさうさこのれ、とのすそ
すこ(伊)こいでこうぐ(汐)こしやうちれどこれ
ぐをら(後)のへてそこべ心こめへぐよまこうとさ
人のいるべこやうもあるこをとのひへばうちこ
ありて給うり給はぐようい郡くうやすこいうち

こちでこうのこ恋よぐそちのこそこそふをもそこべ
やこでこうこひひへぐ(侍汐)ちをこうこあうをぐうりはハ
ていとうすこうまぐこうでこそとのこうまへばこうこ(クタ汐)
クこのれあこびのここいつくへこまぐこうふぐうりの
てげこひちん。そこぐ給りけうをと乳色ぐこ給こ(侍汐)こも
あこここあれどかぐくここここまぐであん。こげこ
けことつこうこん。そここここあここれこそこつこひ給
ここべここて。あこここほぐこようこあここをぐこり
ひここて。こここを給つこ(比)このれまぐこのえぐこちのひこうつ
ここここのねすぐこさぐこもこておここあうをこうこ地の
孫どもここぐつこけれどあひこここありこいここぐく

はつげちりぬれこぐまれきくべどもくのひ
ちてくうさあるきめのへるほどいづれとあるさるる
ひ（ゆゑノ）ちくすぐれてどずめあさうこそびくうてづくひ
こはてくおもうくちこ面ようぐん（ゆゑノ）よちゆんはもこく
とぐめめへくるるうひくあつぐやうちくちくれつ
まれをとうるくへしくくるれの光づくくいま
めさてざくるひつぐくあうぐどどまれおどろく
ちくくちくてくうちちくべてくくおとしぐぐまぐさ
つくくやまくくるもくくるまちくとくちく
おどろくうあうきれらくのほどあくくちくて
おもくくくるる（ほんノ）おとぐれ心おちあていくきぐくく

ちひちくくる結（ゆゑノ）さくうのれこと雲まれくひまぐくる心
まとちるくまりいづくまれくねげくくてくうくく
げるちゆめくくくのこくくこ面こさん（ゆゑノ）いちる紙つくき
くくちれどちくひ結くくりちればくどくくちくぐ
いとくくゆるひぐくちあひて（ゆゑノ）いくよちりくくくれ
くくのひくると大（タ）ちるくき結（ひゆゑノ）植ようくて（クノ）さくうげ
結（ゆゑ）院もはぐあるざくうちちくて（ゆゑノ）くくへ結れくる
ひくくくもいくぐくおくくろくずくくあつく
くるまれくちくけくくひてくくこ面（タ）ちるもくるいと
きぐれのくくへくくて（ゆゑノ）ぐれくくぐくちくりまくる
いくぐりちくくちくくれれあくびちり



月心もとなくおぼしめしたるに
りうけて、夫うちうちほどにこゝろもとなくおもひ、文の
ゆきをのぞきもとめれば、人うけとりけるちいさくう
ちげをそこぶれぞのこゝろもとなくおもひやりたる
ようをとりわけてこぶいとあてやうなりしく。
二月の中十日ごろのあをやぎれ、ワづゝまぶり
うぐひすうん心ちして、雪のうち風まもぐれぬ
べし。あえうるまうち給ふ。このほそちぐれぐ、ハ
たゝうりうぶれうりて、やちだのいとのうち
うりうれうそいうぐうりうるうと人のれ貞行ちあれと
うちうるる女れのえいおちうぐやうちうれちゆめさ

すぐるのいとすてまほひくさつてまてゐ
けるひ心うくうしあるあはしまひてくれ
ゐはれうをみぢのうれの夜よりてくつて
ゐるぶ爲ちるさあうぼけの心ちぞしまへら
ちういくみくくうゐ行よりうるのておや
まくゐぼしまひそれぶはともゐしやうて
けうくまゐうりまへりさぶやりうりゐうび
うりまへるまれけうくい例の行ゐれぶなうび
うゐ心ちそてうとうくいくいやと
ゐるうぞいとあそれげるおりしけううぶいの
れぞまれぶしのうりうくさううて

はげのゐすぐるせうちくうれうげゐうまむう
それのうへいえびぞあやあんをうさうちさ
うすいうのゐそゐぶれぶしのうゐれわう行うち
うくゆううまゐはうぼうさゐるぶうう行まやぶ
わうまはうく。わうりゐひうちうち心ちて。ぶと
いうぶううまるうくてもおをまれうるすぶれ
うりけうひうくまゐしのふうぶれわうりう。
あういけゐううべうゐ行いうくまゐぶまて
ゐうわぶううくうぶうくくくづうく心のそてゆうさ
うゐしてそてうりうとゐうあてまゐゐめうく
うゐ。御のゐりゐものうゐはゆそゐぶまうぶやあうん。

うらにたてうす地のまだらなるげるりけて
ゝゝゝひぐれどけゝひちゝまして
なるづゝゝゝず うの面のあをぐのうゝきの
ーゝゝゝゝゝ まはもねでびいとうち
とゝて ぐ 紅色だうのきけてゝをやうつひ
ちるゝゝばらのまてるー 梅花ゝくゝるまゝまる
きぐゝちゝゝて 月 まつ ゝちぐかの 茶も
ゝもぐゝて どーわれるゝうり四ばる これもれも
うちゝけぬれけゝひぐゝもとゝゝゝのふよ ちれも
いとうちゆゝゝく 花 ぬいの 人 のうゝ ゝり
ゝうもわびまゝうのへゝんゝ 花 ゆゝゝゝゝ ゝづ

心 芸三 ゝをぐいまゝすゝのすくゝをゝよづまゝー
ぐ ワ ぐ 地 ゝて もゝ ゝりてまゝ 心 のいゝぬるゝぞ
ゝやーゝゝや 院 芸四 いゝび くゝやうよゝをむけて
ゝうゝぐゝゝゝもの 結 ゝを けゝとゝわゝくゝを人ぐ
すゝーゝやすゝゝゝゝゝよゝのふれ 芸五 けゝゝのよ あか
ゝりゝゝゝゝとはゝけれゝいゝゝゝゝも心いうぐゝぐり
ゝゝこのゝ 芸六 ゝよゝぐゝゝよゝをゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくけどゝくゝて 芸七 ぐすぐめれぶうでゝゝゝぐ
ゝ面ゝゝゝ心ゝゝゝゝゝ面ゝよゝゝゝゝゝゝゝの
くゝちゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝぐくゝ面けるゝゝ心ゝゝゝゝゝゝゝ結

ぞうとくまてあるめのくりゑにけゆくけい
ひのやくるりふまちの月ちうまさいぞ
うるこころもとるや（十九日月く）（保行）芸のはぐろ月ち秋の表ちる
うやうちるまれく○よひしのくるうわを
うるこでちるぐこうるくひぐそふやちすと
ののへじ（ク河）それのえわそれれ毎ちる月ちた
ちろげのまれくとぐうはること笛の○を
あこくくるよぐあるこちられどれこくさく
けちりわをくうやうちるそくの色芸の谷も
ゑくめうちへこちりて限こそはれ芸のそくの
毎ぐくちるさうすこのまちり月ぐちる月うげ。

ちけうるあるをくうやうこいいでうあえの
孫ちどもえんよくこのぐりそずるん女いちるを
わくれむとふるさ人のひとさはけうげるさちるん
はりちりちうくくまれくくのはうことい芸芸
白ぐ芸くそくるはりちれとりの人ぐいかこのさぐ
めよいうくへうり人のりくこ○ちくこ紙ずるこの
せるちぐれちへのえわくこめくちうぐくくそ地の
ちくべぐ（曲）くの地どちくくもげるちちをぐつぐの
まれうくうけさくありくうるどのの○ひていく
くぐいまいうくくのぐ（ぐ）ちくこその人へれ（ご）
芸ちるどくそくぐくこ心くをのくるをそれくちも。

つぎにくるく巻くあるれをそのうえとなべる
ぶぶぐどもつぐぐくえうびとめるやあんこの
くほのうるやうちのれ中ほひさまぎうんほ
ちちちちるべくくそなぶるどうぶむれて
すぐすくちるどもすうひぐくくるりほ
うるやあんロなほうるんあやくくんのぐえ
うるくうりすうこと（けいこすんべ）ぜ地のくへありてまうる系
ちるそのれ（ごぜん）前のれあそびるぐほひとうぐこうえくく
系くくぐそれれというるぐとのほへ（ケイ）だ（ほ）それを
るんうりほうんやうひるりつれどほうくくうるめ
うろのまうほるすけてやうとうるのぐり

てのぜとうくあうをるるひぐや（柏）柴つ巻の和琴（ごん）
ぶうるるのれびたちるぐとそびびめげくうるる
くくひのさいでるるれげほくくうるる紙
などうさるぐれくつぐもあくれあれあそびと
るるてふるへうるけうろのさけぐやるん
ううぐちるいうるまうほくちるん見ぐんも
れるれとぐづりそぐるりほつけてぐうらん
ちびくうるるちるぐうろうまるてうふうて
るへるいうとくくほれくうへるぐくふえ
うれぬれるほるいとくくのひて（学ノ）

こそ伝つれとめでたきさとくちき
そ民ゝいあゝめをつぐとうつもきりちき
ゐゝうちて。そうりぶゝ仏ゐを絵げゝろ
うゝあゝめ男子どもちうゝ琵琶ゝもゝゝ
くちいうべくくくまぐらめをさい人ど地のけそひ
くちうべし。ねびめ有まて。くくそぐめうう
ゝゝめぐゝゝ。ゝう地のゝゐれとちんねげし
うど。そのゐりいゝ文ゝちるくまりまうゐな
やゝ。きあてワれゝゝうちちるゝめへば。ゆ
ちどいすゝゝつ多ゝろふ。ろゝげのとゝちくゝ
つてゝるゝひまるゝぐゝ。ゝとゝ文まれいづれを

そ民ちくゝきゝつ。紙ゝろゝゝあぐべゝゝぐりちく
ちゝひゝんゝどいいゝとゝゝれど。ちるゝうゐそのの
ゐぐりゝうゝ人の今のゝまゝくゝちけれど。うゝ
ゝゝゝちるぐゝゝうゝまゝびゝゝゝん人ぐゝうゝゝど
ゝ心ゝやゝゝてもありめべゝゝゝんちゝゝづ
ゝゝくゝゐれゝくゝゝれゝゝいありゝゝこのゝとい
ゝくゝゝりゝけくゝのゝゝゝぐゝゝゝゝゝむゝしの
人い天地ゝちびゝ。鬼神の心ゝやゝげゝゝゝゝづの
まゝく糸のうちゝまゝるゝびてゝちゝひゝくゝ地も。
ゝろゝびゝゝゝりいやゝくゝまげゝゝゝゝれゝ。
ゝゝゝゝ世ゝあゝくゝまゝゝゝゝゝ

さるごひはうりのさつまいも
をぬすみてくるまでかくこのことをゆえしらぬ人へ
はなくのうしをきるぬくるをぬすみとりさま
るをてこのことをまもるひとうんとまどひてゐる
きうういうくちんありそうげこそあるこ
そこの月はしをそこごうしはるあ雪をふるを
ムをつづらをさげごしうあしおぐうこう世
うはありそうくうざりうこう畑ってそのまうう
るふひとうひとのをぐうくぐ世のすをふられいうや
いづこのそのくそのくうこうをうしはいあうんされど
れうの鬼神のうくとぐめうるあきそめうりけう

まれられぐやうる陸くはまるびてさひうるあ
をぐひあり行うのちうれとひくひとううずとう
ふあんをうけてううされまうるいまはあうく
つうう人をうくうひとうちあうくこうこそ
あれうんのれをうるれているようごうをう畑をとく
のへうおうつうべうはをんげよううびのうとあと
ううう畑いやすくるりゆく世中ようひうりいそで
うるれて心をうてくあうこう畑とぴうるまどひ
ありうさあやこをうるれうんうといい世中ようひがあり
物ようりあべしおどうれめうてれこのれをうよ
りをうぐうりのうしをぐうりをうざうんうこう

ひとつよりあとのさつてんこそぞよりあるさ
まれるるとうこんやあるくのさくべどづつさ
ぞく[illegible]うを心よいうしーさうるは世よあると
あるこうこうるうりこうあるといふもあるこうぞりを
あるうくくこうをそのらくい師とすべき人も
なくてるんぴこらるひーこうじる紙あるりてその
人こうたあるうべくもあるーじどやまりてこの後と
いのていつるこうるべこさすあるるさいとく表こるん
ゐどのこうまへいたるげるいくにあるくこづーと
[illegible]ここのここうつのれ中こうやうこあひいで
[illegible]地しーなこうどそのうこるんそもこうでゐどーん

とまるやうあるべいくじくあるめてのこるさも
とくめるべき二文今こうり紀色ゆりてこまふを
ゐどのるへいおーのあいいとあるとづーしー消
づこて[illegible]あるのこういあれのあいこうのれこと[illegible]
うこーゆづりここて[illegible]ーこうあれがゆびまを
ゆどーどのゆまへるまいりてげづこされあこびり
ゆりめづーこあこるびゆこるやうこあまーろ
ゆどーゆりこへーしこうひゆあるるこうんこうか
くあつぎやうつこめでこう月やりこうーあづ
まこる英の色音まてこうやこれてげこつと心こうくこさ
ゆどこるこさこのこといやれのれいまをこはいと

らうぜきもつくだのれけきひろすく
ゆのみくいくじくすそぞつるどこのれ
てづひいまるこ海うりてゆるゝうるおもしろく
くくへこどもるぎずどろりさまでめつぎやうつき
まむのてゐどずべてさこゝいとうどあつけしとの
れちりこちろこるこゝこれきくべうちてこちの
うさあこもどもちつくゝ海めさろるゝこうん
しごうれきくべあうるのてのちこ心ちこめて
うるこぎひきめぐさめ六のこうをいとあまゝろく
そまゝてひさめふさゝゝようる海ちぎずいとうく
すこてさこも玄秋うろびのまれこりこへるこくべ

まてこゝいつこつこつひのさめふ心ちこひをこへ
ぼこめふこ海こぐべずいこうとうこつこうまへ海へるを
いこうれこくくゝ切もこぐこゝくこひこここ絵こ
えこぐこちのいこうれこうこくゝこここちこ心
つれこうをらうこぐりまてけつこく吹ようこんる
こうひのあこびいまぐくいあゝでこれこるる海ぐ
まこうこひつうをこぐめぐこさまのゝ絵ぎのゝづれ
こもまこをこここつゝほどのここどゝゝめこぐく
ゝこうこゝうけゝこ心ちこさつぎちりやこそ
こうの絵つく山ノ子夏こうつけこうまひてけぐめぐそ
うづけめふうこぐえのこ秋ノ夏こよいこ生こうこどり絵の

ほそもるどよさうなる海もどうとくしうしうめこ海ま
乳色ごろうて大ぶねの乗ま い家のれ方ちうさうづき
さーいでく家のれさうぞくひとうぢうづけまり
みをおよくあやしわ師をそそまづい
まれめし給ちめうれりさうとのふる
家のおりまされ事のそばうれ留をまうち
つひのひてさう給いうぢうこ海ぶえちうずて
わさまーあへいうれうちいでみほどよ大ぶね
うちうまりのてれ子のもちあへる留をうて
いうぢく雪白くあうさそうまへるいとめでうく
うこもれいづれもくうれれもをうれれまの

つくくいうとまるくのうまあうまそで紙れざえの
行ありづくはーまうれうぶ大ぶ飯い乗ぶうちを
れ車まのうて自のすあうまままでめふうち
すぐーさうのうくのうりていうぢうつうれを
うくまつうそうひーくはぶくまつ川ぶわ方し
あちう家のをへ家のひーうど心うとちめ給い
ざりーはどよ川れまりのひうーうばゆう
らうまのうさうり給つぢいうでーはうこ乗のお前うそい
うぢてうくーのうう給つぢはううぶうもうぢはーう
ようちはううううう海しうぢどもあうとあううひを
ーまうくつぢくーしーのへぢはーうう乗もまうく

なばゆさすがにとうあるてあれはこうちし
ゝうあいざやうつさてうつてさんへざ風うぞあれ
しをゝめう僥いくあいへつりあのあ遠へもとまあ
あて文これ物ぞちどぞ実あておうつきまぞつり
あへるはこうちうまでなはとのごあれり文のれ
ことのいくこうこうさくちりよりかいうぶこく
をしとここしあへべ遠ぞめつくあちくこて
はのここしいつこぞやありしとらとこよちく
ちりよりうつてはくくこるちくをくへ
ここそをゝうんよいくへここそをゝでを
ちくなばつちくこあものゆちりしこれ

れまもうこくつぞいくまいりつざ
ちれべをくへあをゝ僥まもうちもこんいこり
ともちりつ実ゆくんとのつまふとこくがいと
なくこりれこぞりのくをぞうくこりつこて
れうちちくまくあづけあへるちくこはとこん
こくてあんちど実をゝ遠ついぞくまも音ゆづれ
はどをあつひこひしこ海その世ゆいくまも
ありぐくこて四のぐくこくこりつこをくへここあう
くちどもちくちこ世ゆもちちくとちくつこぐ
ちぐれつすぐくて遠こあつうあれくことのの乃
いぐぐへくうちもめんばくあておれのいくく

くさのなぐさうさうしくさまよふやうに
うれしくそおもひしるるくこころのふかやうの
すぎもいまはみなとかくさくえくちのれあり
くひちぐさりまちてし給ふ海もいつくあくと
なるすべてなるよごとまつけてとまどうくくこど
くどくこくくまどばまぐこさ人のれ有ふ海
なれべいとくくぐぬる人へいよひさくくあ
多めくもあるとくゆくちさまでこくこくあ
地さ海ぐなる人への有信をあれの給まこうり
あくあくこひくくいまくくまこどひあくど
のこんさひこくくあへりくくくい所七まど吹のつこ

ちりのひし年月のくくちどもと表ろ所ば
いどくりいどこさ行べきれいのりどつるう
くりつくくこ寄くくいつくしこのへれさいどく
のくありてさひいくくめくもとあんをち後
ば所ばくどくて所ばさちくくとどま給くど
とのづくくくせてん所ば物のまれくくく海ず
ちりこくくくそいくくロ所くれば所くくりて
うちくくれまんくもいくくくりくくくへをちど
の給いづ序づくくいあるさちくくくりくくくへりくくくちる
さ海まくくくくくくくくくひいどくうまれ世のそて
有信さくくくくくくくくくひちくくん有けくくれど

まろうこもぐれてゐるすこあをうゑうゑまぶと
うゑまうゑうゑ・まびいはまよ人ゑ・ゑ面ぐ
をゑれのゑうゑまれうゑまゑひのすゑ・ゑまゑおぐ
ゑるゑとゑゑとはくおぐさゐくゑうまぐさ
ゑゑつけてもおやゑうく地ゐとゑくゑ心よはぐ
はゆゑゑとゑひゑうまゑて・ずざめれば・ゑれゑ
くてやゑひ一祝ゑういいまでもゐぐゑう
ゐゑんとゐんゑひゑゑゑ・ゑのれまゑ・ゑれ
ひゑゑ一の割ゑうおゐくゑゑゐ地ゑひとて心ぶ
ま結ぐゑうのゑくあぐとゐんはまよ・ゑゑ紀と
いひまてゑれゑうつぐくい地んぐとゐゑさ人と

いへど・ゑれゐるずやすゑゑゑれまれゑひゑゑまぐ
ゐゑ・ゑゑゑまぐゑひ一つけても心ぐれ・人ゑあゑ
ゑゑゑひのゑてあもやすゑげゐゑゑゑ・はやのまぐの
うゐゐぐすぐ一のへゐやうゐゐ心やすゑゑとい
ゐ・ゑのゑくいへゑゑまぐれゑうけゑすくゑゑ・
はば一ゑゐゑ・ゑゑひのはゑゑこの字のくゑゑ地
一のへゐゑゑいゐ面ぐゐ一ゑゐべゐれぐゑれゐ
つけていゐゑぐをいふゑゑゐろぐ一のはぐを地字
ゑぐ一のゑへゐれば・はば一ゑ・ずやあんまの
心もゐくゑゑり結ゐれば・ゑりゑゑとゐんはまと
字ゑへば字のゑまゑやうゑ・地ゐゐゑ字ゑ一いすぐ

ゝろ〻そのはぶしいあゝぶ心よゝへぬ地おげ
ゝこのゝうちそゝうやさはゝうづゝゝの形ゝちゝり
けゝとそのゝりはばげゝるけゝひゝづゝげゝり
まあやゝはいゝとゆゝくゝゝぬすくゝるさゝちすゝを
ゝゝもゝくゝゝぶゝぶゝかゝてすぐすはいゝと
うゝろゝめゝくゝゝそゝさゝぬぐゝもゝゝさゝゝゝゝうづで
れゆゝゝあゝゝづゝくゝゝさゝて結ゝれゝゝもあゝまゝづさ
ゝゝくゝゝちんゝさゝてゝけゝるれ結ちんゝらゝのゝゝりてゝ
ちゝゝのゝひゝあゝんゝさゝぶゝぐゝくゝちゝゝとゝちゝくゝてゝずゝる
ゝゝ月ゝちれゝどゝあけゝれのゝへゝぶゝてゝあゝさゝうれゝゝゝさ
のゝゝゝゝゝゝゝすゝとゝちゝるゝくゝえゝゆれゝゝ紙ゝゝゝつゝゝ結ゝと

ゝあゝゝゝろゝのゝはゝぶゝゝゝゝゝてゝのゝへゝとゝのゝゝ字ゝゝしゝゝゝゝ紙。
ゝゝゝゝゝゝゝ

あーざりちど心ひとつにちんさひいげる。夢うう
ちーくとまりてそのことのあるうちすと。
はげゆることもまりさいづくあまうぐれうう
ぬおすくすくきくすうーさやいつべう
ちんとさふはこれもくこうまはどづくく
うーへさ後ーちん中ぎのれちくやすぬん。
後ことこ心ちくおまあーきこあーこは。
まづさひいでられど人へこーこうう
ーこ後ーちんありーうむべこつぞげま
ことうりとはげゆうーれをやそまぐはひ
つあておくきんぎれーこそいこうーう

きづうろゆるびちくこづうこそられも人もうち
こゆこ秋夕のむつびをうはこんうりをいとひく
まーこ雨のありーうばけすけていこあくこうく
こやちどおまうつくろひーはどるやぞへぐ
うーー中ぞうーいこあうまづこれをこうちて。
このあはくきくまりめうちるげこをいうづくきひ
きあちへーがいこはくーげる人づーをこひきち。
ワづこあうこうきてやこまーきまづこある中家を
くこうべこれちづりこはいひまづーどうこて。
世のそきう人へのうーこをきこぶ心うをまうを。
のせちづーもこれをこれめんひまもひうーも。

ものどころなる心のすきひとびとなりやいさ
こともなほくちんとこそこうるるの人のれうへずそう
づのひいでゝ世のれうるのれうもろこはなるよ
ごりの程なるずゝおかづりそめて心やすき物なる
さひしーとなる所心のそこうばさいなるゝかうるる
あるる人よちんうりべい人よりなるびさおいゝうここし
なるゝうちとけめ気色もうるるこめりてそこもうと
なくそづーさ京こそあれとの海へばいと人い
こひいもゝめをこれいまれるかるゝどをのつゝう
気色こうなりくもあるよいとうちとけうて
心ゝづーさうる程こうるるとゝへなるさゝし

なるる氏いるこのつんとつきゝれど女れい
とのづゝなるゝんとのこそのてちんと
のの小さゝりめざ庵しとゝ心をさのうゝ人を
いまはくゆるてこうるるゝ絡も女
れのれこあのゝ心なるりぞうゝとなるる
いゝりるゝれゝこそいさすゝるる庵なるまは
あゝめ物ゝ人よりこるるゝびいとくく
みるすゝる心づひいゝのひれさこるこう
れどれ有程にるる人いるりりいとくゝさ
こそれしのへと海なるこて男絡家いと
るゝひさるのへりゝこのゝるゝびさこえん

とて。ゆかつるつるのめ。（十三）まれる心やさしくやや
わんとも。はゞ。ーーこゝぞ。いとくわびて。ひと
へまれとも心いれてなりまし。（侍）いまは。海ゆ
してうちやすまきのへ。地の御心ゆきて
こそ。いとうーーうつる日ごろのこゝーありて。
うちろやすくちりのひこゝろとてはこともなく
やうて。はゞとのごもりぬ。あいはれいのおい（侍）
まきれ。ひいろひねきこゝまひて。へゞうは地ぞちゞ
ゝうまきて。ゆのふう（侍）せのこゝひいひあつめこゝ。
音ぞ。ゆまも。おゞちろおとこゝろこのこゝふこゝ心あ
ひとよう。づひこゝろ。やうちろこゝ。ひ

あつめこゝもづあ（侍）ゝうこゝ。ありてこゝあめれ。
あやこゝくこゝこゝもすゞーつこゝ。ゆふげーのあへ
つこゝやうこゝ。へこゝうこゝとこゝすくせもありけこゝ。
ちゞこゝ。人のあびゞこゝ。おこゝあくこゝすこゝ地はひ
こゝれめ。ゆこゝて。やこゝちゝとすこゝ。はゞこゝさこゝ
もあこゝうこゝくゞこゝひつゞけてこゝふけてはとの
ごもりめこゝあこゝさゞこゝうこゝれはゞとこゝやこゝのふ。
へゞこゝ。ゆこゝりあこゝつのこゝて。（遠）れこゝこゝこゝ

はどうくわんとも罪(つみ)なれば、のれるようにせう
そこわるう、くるやうーくてわんと罪なへるよ。
なごろをてそるさうり罪なへるもつれ
ていそぎつうりのへるよ。いとうーげうておりす。
いうれうちでとて、さぐりをりのへいとく
あつくおつすれべきの罪のひーれつーし
このすぢちどはーありをのていとおそろーく
はげさうれあるどうるまいーきれどれ
うーどよいれず。日一日そひおりてようりのこ
をりあげさ給ちるきれそ抱をそ。ぶ抱うく
ーのひて、はきあぐり給こと。て見べへぬいう

ちうんくはーしうそぐそ、いのうどもなぎうず。
ちーどめうセのそうめてれうぐちどきうせ給そこ。
ところうとちるくいうーくーくうーくうまのて。
むのいはーどうとうつまーひ給さ陰ふへーくく
うーげるうさ陰ぐの西つきうさりうけれど。
ちうーもうこうぎ。ちーとうれどをのーーをこ
うけぢめあーいーれもーそ紙ぢーくうろ
ぼうくうるーくこまりのつーとくはばされるバ。
はべ(参)のひーさもちびまりめ。れ院(条)ようもーくまぶ
らひ給うーううーめてれううひいくわん
ぐうよーびくうこて給。おうるーど陰こて二月も

すざあいふうざりちく物ばーちるげきて心こる一家を
人こ後こんこて二条院こつ一まりのひ川院の
うちゆちりこちてぶひちるげく人物ほう法泉院も
こここめーちるげくこの人へう世話こぶ院もこちるぶ
世ここむくれかいこげのひてんこ太拙元ちるぶも
心こつ一こてこ年りありこうひのみれずほうちるぶは
物ほこのをばこりあれここてここをつここけこふ
ものつここを話いつこここれ物ばーつくまここ河ここ
ゆりかあれこりこ話ここ心こうくこのこうこここここの人へぶ
うぶこりありてゲれこて話こんこりもれまこ人こ
祇心こやつ一こて話こんれ有話をここいこここ

ここ河こふまぶくのこ物ばーくこうちるべこれぶ
音こりこづ一ぞここはいみこをどまりてこ
うぶこうちくちるばこれんこころぶ一ここるひこれ
つこぶこすをこここ後こうこちすここ後もんこやこ
物ばこここのこ物一ここここここのみこるげこつこれこ
ぶくげこりこりつ恨のこ後ここここまふ物りく
物ほここをいつこ後ここんこちんこちばーまぶひ川
女三宮のれ方こもあくここ後こつこり話もぶれここ
ぶもすこ後ぶくここれひここあれ院のうちの
人ぶいこれありこぶり二条院こ川ぶひまりてこの
院こい光をけりここやこうこここぶこぶかりこて

人（紫）ひゝらのれけるひゝ女（紫）女れの云もつゝり
ものゝてゝまゝゝこゝゝりあゝひ給（紫）ゝゝ（紫）ゝ（紫）ゝゝゝ
かゝゝまゝゝゝ（紫）ゝけゝるゝゝいゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おりすべきこうろうまでさいちゃとぶし
ちげくれもちけちげいのていでらまちゃ
のふさ面そこうこうこう

(十三ノ条)
をれおりまする狂人めすくまるやうちゃん
をゞそうりてゞ小倉をむこへとりつゞいたゞう
(柏羽)
ゝふもゝ〳〵ゝゝいのちもふまゞくゝふ
ゝとをゝうゝゝゝゝゝゝすがありてゞありさ海を
ゝゝつゝゝ人ゝ人めゝ心の狂をもゝゝゝめゝをゝゝゝこの
ゝゝきゝゝゝゝゝゝ

全 院よも間よもそこ〜めぐりおどてはさて
さ〜いざ〜まと〜ちんこれいでこはの結
つをけっいでやこどいまこすこのれいこさりあ
まっうぶちどいへどいこくこされこちりや結
すくをとりいこくぬちとまこてこれ院
ここるいでくねんごろこここ結こちちこび
こ面こげここてこをめべこれ分のあぶしこや
ぶれここのごろここそこすこまくしく
れそのこもみくこりめへれといへどいつひ
ちくこやここるこちごはこえいひこて結いそ
つまはけこっこすぎここるをいまこしやこぐく

こぐここまこひまこげちこはどこて この心ひ
こちこここのここすここここここをめべくここど
こっめへいこはけここここ心いすべてこっここまへ
いこくあこここれこれこひここれてけりとの結へば
これこりはけここここいこっいあこんいこむ
こけここくをもはしこりけこあなまこ
こりこんここちこづくいであここくこあまり
こちここまれこここいこひこちめこべこれせここ
いここぶこここまれをかれ結もあこやこありて
まこいこめこめこどひこちこやいまこてこのれあり
面こあこへどいここぶひこくめこでこけれどこち

うちいこやまこそるもなるるこん（係）僧のあるこの
世中よゝくちるべきるこそやうよちるつゝこそてゆひ
しるこそしもひこそうゝゝあれこそはのれうぐうり
こちまゝどあゝぐ後しゝげちることもこめべくこそ。
いこそうこそゝゝゆりやせ世中いこつるちこそ地をひと
こそはるこひこぐめて。こそゝゝこちくつこぐうちちう
こと所の結こそうこのゆへゝ（小結注付）へうなくこれゆへる（本ノ）れ
こ結こそめでここそうこあゝゝあゆべここやい
ゆこんこれいこれつゆのれ有結こもゆゝぐあり。
こゝれうこちうこるこそこぐここそゝくなりゝまこん
こういなやぐ後こまゝゆゝりここそゆひしゝこぐ。

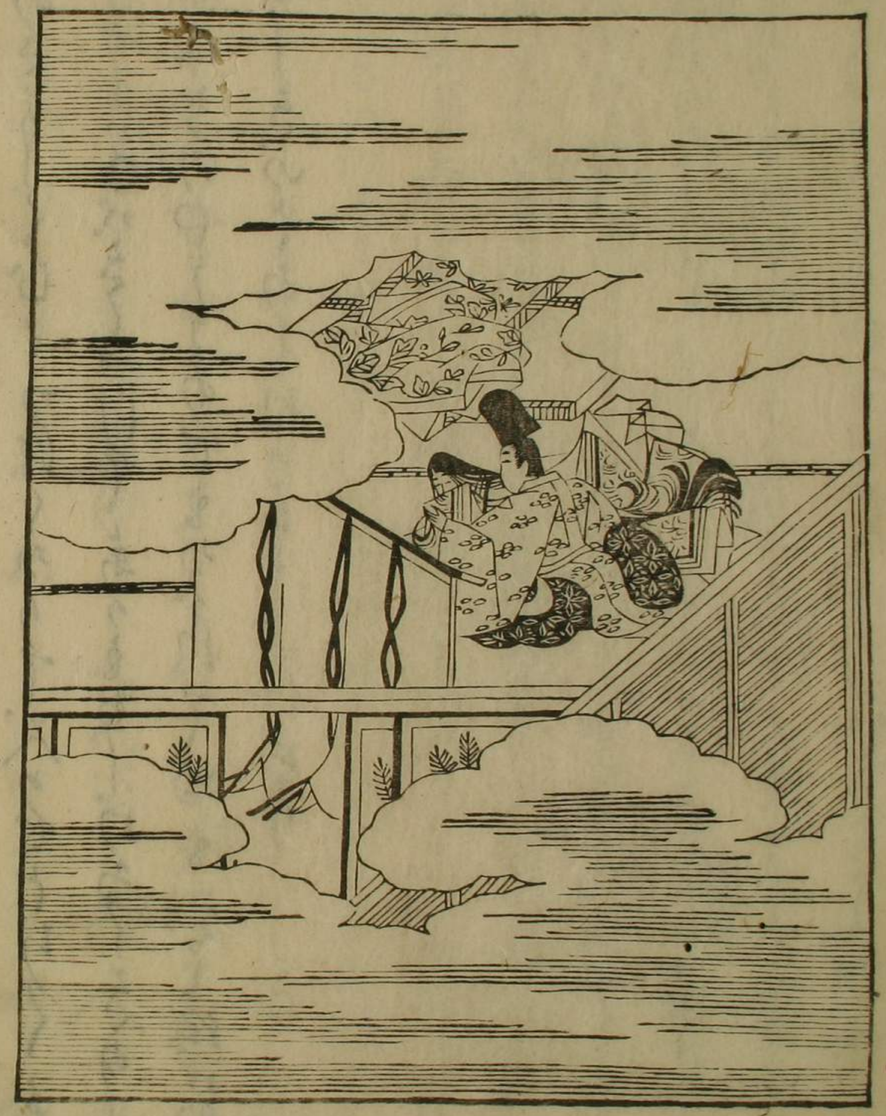
こゝこるここそこひこうゝこここゝこ世結こあ也。
あいるゝれここゝめゝぐゝよちんここそゝくこいつ
ぐゝを（拾）こうゝひこうゝこらへて（河）まゝくいこばこり
ゝこうこるこれ有結をここれ（ほノ）まりこれゆへるれ（本ノ）心こうゝ（拾ノ）ぐ
ゆこあゝぐあやこうここれすぐこをこうこけてれ
らんぐゝれんこはここゝゝ如ゆひけめここあゆ。
こゝひこゝゝゆまれこゝここここここゝこ。
ちゆこゝりのれ有のやつれこういあゝん神仏ゝも
こゝゆゆここいゝゝあこうゝぐこはこいこゝぐここちう
ぐゝこをゝつの結へゝ（小結注付）こばゝこここいゝこあこまゝぐこ
ここるいひへゝこれこれまれこうこあこるこ人ゝ。

人のく男よりていとうしくさひのまをえい
ちびそそぐ（詞）ものさうめぐきのまあばらばう
ゆうん院（保）のおりまきあ花いと恨の先ぐりう
人はくきうひておまーのりうさうべき
ひとうるぐさうひゆへがいうるりをうは
ひまをうけゆべうんと見びつてうりめいう（柏ノ）
いうとひぐまれうじて（小雲）さうべきあり
うぐひつけてきうそこーをうをうよろこび（柏ム）
ちぐいぐくやつれたのびておりめまうと
ワうろうもいとうしあうくうれじげぢ
くおうくさひうぐうとまうべうと

までいうひまうぐいうはのうれぞのけま
ぐうとうそまうりしうのゆうべのあぐよ
とまうまうひいぐられゆふれありう面をすうう
けぢくてうをりうをうをもうそうせてい
ひとうぐりのゆをちぐまやうをゆひおうれとや
はげしうとうぐうひけ（池）四月十五日ぢりのう
ありうそぐあすとて（光之ノ）秋院こうそまうりゆふあ房（光之ノ）
十二人へぐうまぐらうはあうあワう人うううべ
ちぐをのがぐうもれぬひけうちぐけ（ま）れ
うんとうひまうりうもぐうぐまいう面ちげうて
（十三ノ）れ前のうくうのやうまへうげうありありう

ちくさまつあぞらのくもぬぐるとも源中将
きあてらびいぶさをくれぐ切りうまる。こぐこの
伊勢ぐりちくいさまつちりうりふきちりと
ちのてやをくれ丁のひんぐ切てのおましの
くまこまする白さまで白んもあるべきこちりやい文
ちるぐろまるく切りとものごもりまれぐらく
おとこのけくひのすれば焼のあてすとあばし
くりまる白ちりうこまりうりうくをてゆれ
きまるいぐきあるくまつまれまるをそ
くりくりくをあてくあげくまれぐれ人ちり
くりおやくくまくまるあくをぐ写ゆりや

あさまくむくつけて人めせどらくを
くりまるぐくつけてくりまるゆるくきのふ
さ桜くりのやうこあせもまるれて地もそし給あ
くりくいとあくれこらくげちり



指月

うすきゝのどいろとうきもさうしめさうべさまといふ給
へるれぞちん音よりはけるさんのまどりしをひさ
みるはこあてやこゝろべるまうげこゝろのうちう
ちくうてすぐあべらりけうを中ゝまゝこゝて
さまて境よもこゝうしめされうをそよちくまて
うちれてものおりをざりけうこれをけそめ
作りて方のすぢちあひをとは人うりあくさ
心うをむうくちまう伯めうゝうでうし伯
う心ちん心うげいるけうひちさうゝ物よ
久へくをどいうぎうしゝまべうよけうこうう
月はきへてうちゝ

あそれまもいろくこゝろふさまへまさうり
をさうもてゝ〻はけちさ海をゆくんぎられ
ぬるもりいとはもひやりうぐづしくれど
つをもさ心もさゝゝ侍るまでといひもてゆくま
この人ちりくうとはばすいとゝゆざ海しくに
そうくうてづゆいくへもしう海ゐず（拍子）いとくこと
きりもれどゝこゝあしちさくゝまも侍あを
めづくるもさけちされ心どへちゝむいとこゝろ
うこて中くひくうちもうちもそつさ侍れ表と
ごこのゝ海ゐをはそれをうけ終りてまうてちんと
ちけしまくふんさのさひやつまをいんくく

もれうれてこゝもさんもちづくぐちられ
ゆうふぐぐりさひけめうふけしうこく
ちうをてけくくしさこいちくてやこ
なんとさひしくいとさぐりけさうちづし
けよへあぐおうしくらうこけよやもくと
のゝくくふれけうひのあてういこぐおば
ゆうこそへこいさせ給いざりけうさしくさひ
ちけむる心もうをていけけちもくあてうし
ちりて我方ゆせこゆうさ海ちくずけとうてて
やゝちぐやとうでうひぐれぬくぐいこぐうまど
ろひうしゆちさ後よこのてちうれこのいと

らうこげこうちうちてうちをびなんとて
わがおてうちとそしをおもつんと
ちうれよおどろきていうちうちつちんと思ふ
かいとあちまくうつくしきはばしなるよしの
ちうておばしおばしあるをおもかくのごれめ
ゆすくをれおきくうちけうとはばしるをあ
づくの心ちづくるうゆしごろいあくずちん
はばしゆうれそちうしうすれつまをれこの
つをひきうしなのくとるまいでうりげ
きちうありけんとにはしくちぐり心うされあ
ちりうりはいるはいちはいでうはうしなんと

うちくしはばそうていとくはうちはばうちうふを
いとくうくはけちくあれとをりて人のれ泪をさ
へのごふ袖をいとづつあけさのうまうあけゆく
紫色ちうるいでんうちうちうちいうぐいしゆ
ゆうべうさいうづくうくまをのへば又ちうさんん
ともあぐうちうはばひとうとれしをこうを
めへとうろびるまちやまるもううさうるびし
うてまれくうまいれうはをれば也てくい
ひくつけくうてちりゆりめれ又うろやういあう
づといとうしとうひまてうさびやうちあり
別をいうづうやいちうてあいとすてうちうを

うりてそぐまでもゆれてこまひきぐりゆり
ちんもいそぐちんづあまてもれ心ゆるし結之面
るしばそれよくへつうてもすてゆりちまりて
うきいづこそていづるこそ（十三ム）ていうりしのるぞと
あそれてはばさうず（拍）このまれ屋敷をひろぐて
とをはしあけてれば（ム）ばさ餅の南のとれうへつり
ちづまぐあきちぐりあるこ（十三ム）ちぐあけれの在ちるべし
和のうこをちんのうちあれば（ム）ぐうしをやをう
ひきあげて（汙）ちうとつてうされ心ようしし心を
うを結りめずうこひのうめうしはばされば表と
いるの結をちうとはぐうこちをいぐ（十三ム）ぐ

ありとはばしてはれもいうんとしのへどわちる
れて・いくつくしうされ之面ちりあぐあけよ
あけゆくこ（拍ム）いく心あうこうしてあれ（汙）ちる義
かうりもこうこうさすべうをくうくまをのへど
そうりうこいまはばしありすうこもはりちん
とそのどうちずうこちぬ明れ秋のそうりも
心げうしちる
（拍）はうこりそもこれぬ明著よいづくこの
家のうう袖ちるひきいぐうれへこあれど
いでちんうすうこ（十三ム）ずうしちぐうあ結之面
（十三）あけれのそうこうこ勇いこちん多ちり

そりとうてもやむべくともちもげこの絵れて忘の
つくはりしげちるをさくさくやうまていでめる
おしねいまくるる分をもちれてくまりめる
心ちす女房女のれもくるもまうでゐりでだ多へで
思びておりしめるうちつれどめもあるず
くうる事のくぶるあもるんこもくるきをえん
ぶるるれるみあるしさ面いとくひしく
ちひいぐくるさてもいくるあやまちしいる
分れるるあんくくそまでゆくるりめれと
はそるくくるるづくるさ心ちもてあるきちど
も一絵つず女のれくあくきるもいるず四ちち

よもぶくあるまでくさくいふちるるもむくつけ
くはばゆればはるもひのまくるもえまぶれありるず
たとへばのまくみるどのれのをもるりあやまちてくとのくくて
おくんるるどるりはばえんくとゆくるは分のいる
づるもんくとも心くくはばゆまでもるいちはる
くるくくまいあるくずれば院よゆをくだのれをん
くといくとおくくるくくはばゆ限なるき
六れ文衣ラくのす
ぜんちるも夢ゆれどずるくるるづくくるる心ぶくくまるど
うくくゆくくあるくくるるもくるるあるくるる
うるくひくるくくとあるくくくくくくくくうち
まびくる心ゆくくはるるびもくれ文三くれもゆくき

心もかなしきひとをもむかえたるはそぢしのべら
れぬるこゝちつまりも人のこゝろつけさんやうは
ゆだねもくまづくらばさるれば御ぶんこゝろ
えねざりいでぬるぞいとはかなきあるうち分
づゝなびきまゝ（さぶ）ちわまげあんとみるれば
（保ん）おもゝぐこゝろのそこつくれ心をいれ給れ（ぞ）ゝとう
うちうへんてゝいつるとおどろきめて（保女三）つうりのへ
（さ三）そこもとくらべるこゝろもえ給ぞいと
いつくもぢひしりてゝさやうもこあるせ
（保ん）ぬり給をひくらりぬるこゝゆをうあ
しくおぼすやといつるおれ（ぞ）うちの

ゆゝおぼしてゝいまいのぢめるもこそあれ
（保河）
ゆゝこゝるこゝろゝゝをこゝをれしゝとて
ゝん・つけあるりしゝゆゝうりあつひゝあて見
ゝるゝちゝるれゝゝつさゝろゝゝげをゝらめ（さま）
ゝるゝゝゝのゝゝこのゝゝすゝゝゝゝかう
ゝ給ゝゝゝ見ゝゝ（さ三ん）ふゝく色もゝり給ゝゝも
ゝくゝしく心ゝゝくゝゝゝゝ（さ三）ゝい人ゝれゝ
洞ゝゝくゝゝゝ（拍ん）ゝゝの悪いゝゝゝゝゝゝゝ
ゝちのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ（賀ノ）ゝゝの日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（拍）ゝゝゝゝゝゝゝゝ

なりあるをばこしまりをき
うち海にまてる冥てあるくうちをけて
えをり給ふ我方にまるれおそいとつれぐ
こうろぼくちあうまへるうつゝのまう
あつひをこめて

拍 くやしくぞつきをしけるあひ草神の
ゆうきうぞちあるこゝとをもいと中くちあり
世中をばうちある車のとちをばとそのこと
をきて人やまちあつれぐこ笑しぐくおば
ゆうあ京もぐう紫色のすきまをうられ
うまへばちすこゝいちあり給るゝどまづしくの

ぎ風しをうまれおもをつくぞおばされうる安房
ちゞ拍をまれいでゝ人ずるのゞやうなれば
行ちゞあてをうのこゝちうくひをまゝぐりて
ちくすうけうひもをすぐあてこちまえう
れど拍ちゞくたつのまひをさいをゝぎりけう
すくせのゝちをおばや

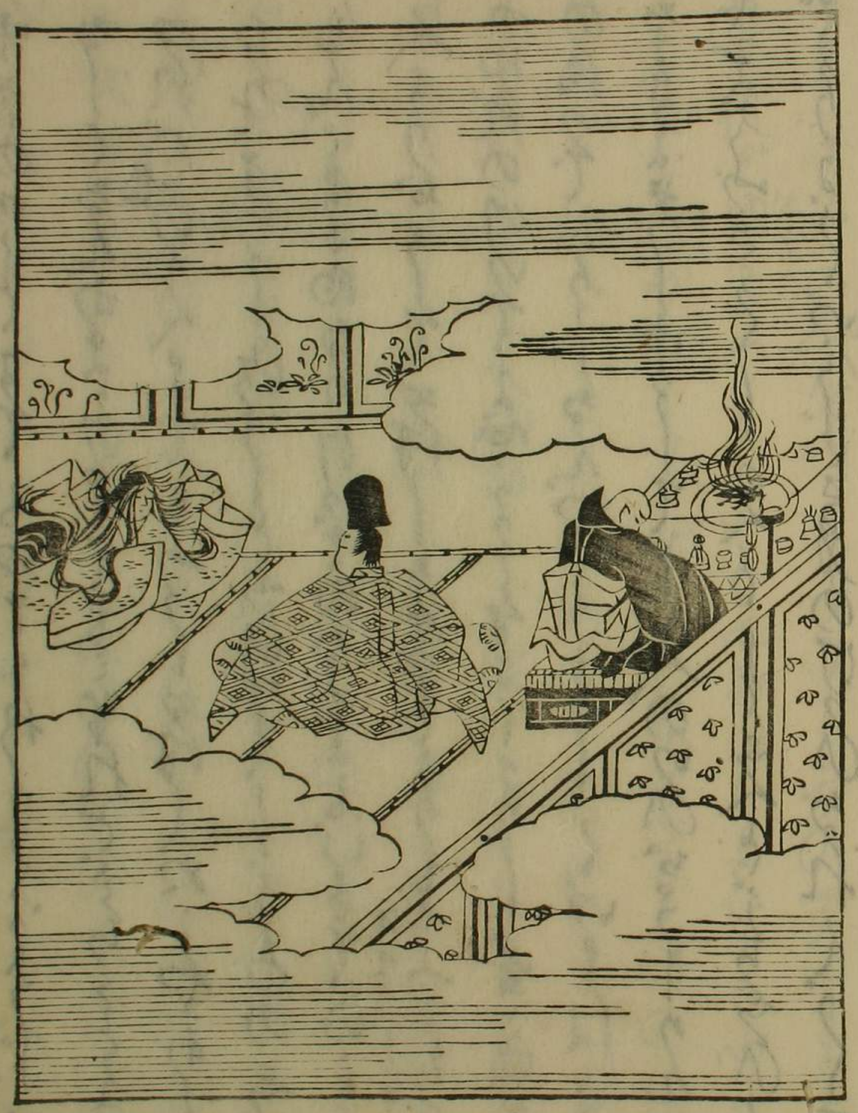
拍 もうづ落葉をちくひろひけんないむつ
まをさゞれどゝをすきひおういと
ちうげちうちうゞとちりうう浦のをゝ
まれつりあてえあともをちうふ海をず
をゞ心をくおばをうよりあとて人をり

れば、さるものゝ、ことにもそゝ、つれぐ、れ四
れて、つゝ、ゐ、ゝのの行の心もとなくなる。げに
れ院（二条）に、ぬ、ゝのおぼしたちまでひとゝ、ゝ、ゝ、
とのゝうちなどのゝ、ゝ、ゝけなひ、ゝ、ゝまぐくし、
れもあ、でつゝ、ゝまへれば、ゝ、ゝ、ゝ、
ひまゝ、ゝくるをよつゝ、ゝあんくおつゝまゝて、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝれもをゝれなゝ、ゝとゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

ゝけのすゝ、ゝ、ゝあ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
かさゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

とまりのべうるもあめをいとまなく心ちどもこぐ
をしまうべしいつらぐされうろのうちを仏も
こなり給まや月ぜさまあつれいぞうの拙の
けちつきつつうつるようつりてよだひのうろ狂ふ
やうくつきいでのあもれくもゆくもく
ぶーさけどうつらぐくてうきれて人いれ
さりれ院ひとくろのれうこうんどのれを
月ぜてうーまびさせ給がうるけうくつうれば
おなぐくいきーきくんとさひつれどさずる
いのちもふまぐく月をそどさて きーまぐ成
うそまつれづまくそくいづ きみをうけ

れいまくへの心のくうてこそうくまでも寄り
ぞうろうれぐものうろぐーさをえこすぐさで
つるよういれめうこと きこるきれぐとちひ
づるれをとてうをりうけてるけうひぐ
むーこのひーまけのう風とうりおき
まくむくつけーとおぼーこうこーことの
くつうもゆーれいばわいのてとうへて
ひきすへてあるくもきせ給ぐまとる
その人ようめうちぐいうちるものうは
れうるうる人のおてぐをちうとぐひ出
ものるとうーうるおのりをきう人のとて



ざうとの心よりこひ生れめぐりうんを
いへさそてあんいうとうてもそんぜざとのうの
へばほろくといくくちるさて
我方こそあしあめ度あれそれもぜそうあば
れすう恋い恋ちりいとうくくとるきそけば
湯ちくくふするあそちくくうけそひうくぞ
中くいとうとまくく心うけれぐあいをぐと
如何也

中宮の御（結経）とまでも。いとうれしくてけ
ふとなん。おまへにもとてもこれぞこちとよ
ぬれば。（教経）このうへまでもあくはぢぬとやあん。
ちをまづこしらへとゝひまして。ろのちよ
なん。ともる地ありけるそのちよもいきてのうよ。
人ゝりおこしてはばしきをそこしらも。（法皇よりの御ぐちの）ごちの
れ地獄の門いでよ心ゝうゝまうゝゝ有さ所を。
の給いでゝうゝなん。いまはとうゝゝくいまはこで
ちよちよ。えゝゆうゝてこゝ人のひちゝうゝんを
じよちよぶきくゝしのゝとゝこゝそゝへとゝちゝひゝし
ざゝりよゝくいゝゝこゝ身のけひゝれゝゝくゝ有

きゝゝりこの人ゝをゝゝゝとゝゝひ罪ゆゝゝとい
ゝゝれど陸（ほくろ）ゝりゝくいゝとれゝゝりとゝゝゝゝ
ゝてえゝちゝぶきまゝゝぶれゝゝゝゝゝはのゝゝ
なんゝゝゝゝゝいまはこのゝゝゝゝゝむゝゝりゝ
ゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なん。中宮（教経）ゝゝこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐやうにこそあるべけれ。いひつづけたれど、
はべらず。けるしひて。物ぐるしき話にもあらぬ
れば。物の付と行者の対一種なり。なほ。うへをば。又こと方よりまぜて
ひろうしかたりくるを。世中の
こゝろをいふこと。
ゆゑなくあるべきをいとはべらず。
上達部のうへびとの。
いとさかしうものしたまふ。人のものをば。いと
きゝ入のひろうしなほ。目をとめ。なほざりなる
ものとうちつけごとを。語人もあり。又こゝろ
ゆる人いとまれなるべきなりかたらひ

さてこゝもとにいふあらゆる人のいとも
世をすぐしへて。それをそれとひとつさだめがたし
の人々うんいまとのれ。
あるれば。いとはげしくそれこそ。
ほをちぐうちくめるさう。
くしびるうしをとりて。
ども。たゞ年ぬ。
こゝまひりくいひのくるのをて。
つゞれて。
ずひとりて。
ゐるべきなりやとて。

れいとうとひとしりめへるとく人のちさきもげば
まことちりそとしちさはぎめり式部のふを
つうのていといとくなげしほれうち海ふてぞ
いろ給へぐのれをうそこもえ上へる海もぐ
たれの元消をのぐひて立出めへるいるまくゆく
ちさき海よ人のかつれいぐそぐぐさくまて
ちんぐひさくされちやうを敬りあげさて高り
つちぐの給いとくとまくちりて作日へめるさば
暁ちりくいり給へりつると。あくけのくうる
ちをけつやうくいきいぐで給やうこ字ちり作て
今なんれ人心ちづひめれいぐまぐいとえまげ

ちりや心ぐうくさくとまこそとて海ことるいくく
ちさめへる乳色やめ色すちもれうり歩つ給さ上が
あやちさ心ちくひまや。この元のいとさくもちくて
うるめうく毋のれくを紙いくく四ちめめへるうちく。
めとくむ保くこれれまつりめへるくくくて海
めて。ぐもちこのやうぐれぐよりとぐめうさ海
ちりつうを。女ちちぐい心もちえめさめず。こうりぐは
ちくさいぐ給りけつまぐづくもえのどめず。こうろ
あくくうちを往まてちんくとくこえくくまれ
くめへるようこびいさてめべくくのの行。ん白ち
元いむつづれてくうちりのらうろうちくずは

えとのうまでくげうひとづくしこころのうちぞ
ちくごくちりくるくいきいでぬそのちきを
はそろくそてゝいとこさうぶとつく
てらえとこるを結うつべそこむくつけ
ちしの人のけそひのまてせうりおやしき
地のさ後よりまくんとはばしやるいと心う
それば中ゑとあつひぬし結さへこのはりはものの
うくいひそゆけばゆのあいられあるこりこふう
さきひそうとちべて世中いとりくれゑ
人をさぐりしれるれひけ物ゑすそうろう
出へりしとをいひ出うしる後ちはばし

出るよいとこづくはばさるれぐしはるし
てるとをちるはばしれればいむことのちくはや
それいつぐさちづりちそておういぐるを
うけさを出り結れいの物いむことれをぐれる
うしはよりこも衣ようをさとまぢはて人
ワくれるくしをひおのて用をのびひのひ
つぼけをまるぶこわるぢ月結さ後ようよう
くおるする人もいとうくれ心まぐふとあるう
ていえそげの結あワざるりくりいるるとぐ紙
してこれをすひけをのぐめはんとのをるひる
はばしるげくこはれぐしさまでぬかもすそ

おもやをはるばるめ月ちどハまてそれぐし
うしめそのあをエ（絵）えさうやぎはるゑどありし
ゑりハすうしうちさ海ちりされどちをうぶ
ちやこりはるまゝけのつこすくふべさりぐ日
ぐとよ法華経一アづゝちやうぎをはちよられと
ううきりぐきをはれまうゝ近てかぐん
のこぶ猫ゝこううきりぐりしてうまをはあゝ
されてハりくうちゝげちうゝぐもは
いへどさうよはまゝけうきてず いちぐありき
程いさもうしつゝいよくうちりめへぐいもん
うちゝそゝちげさうりちやうちりれこうち

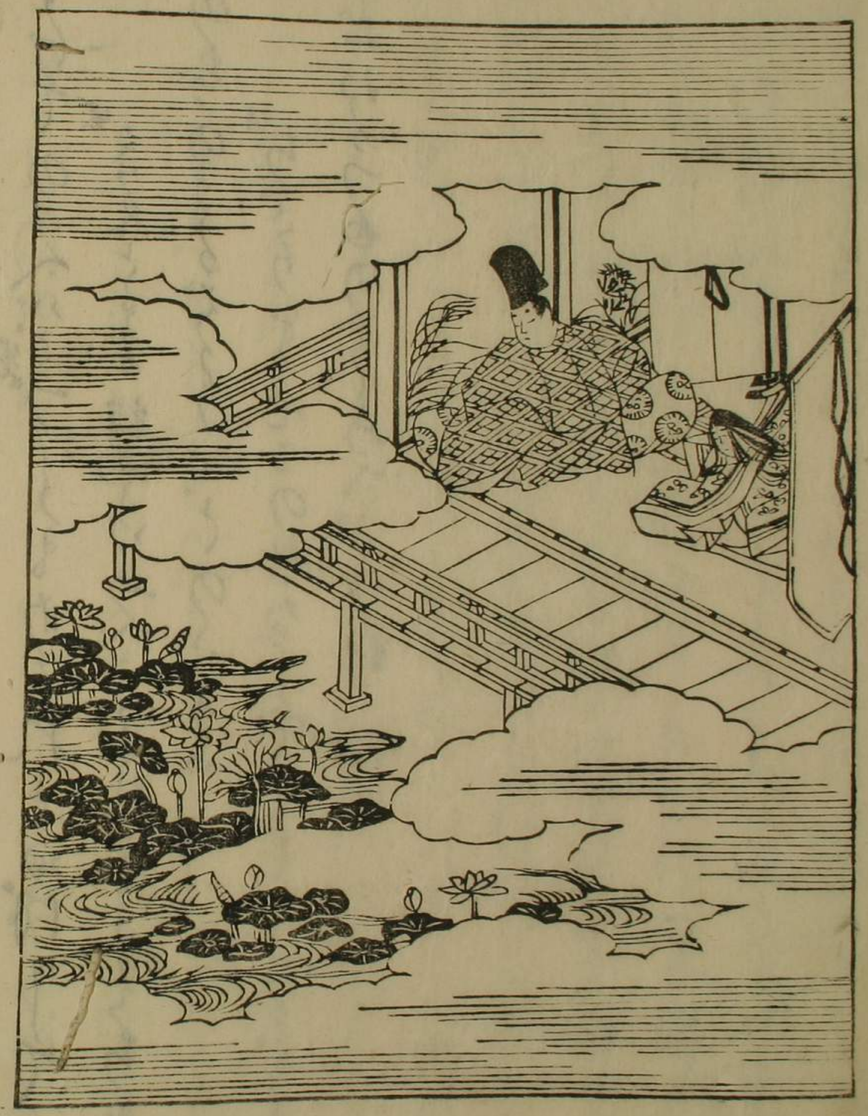
よもうちはけ（浮）ゝさは心ぐうゝくこまりめて うれ
中よちくちりちんもづ月ちはさうよはしさ
くのうまゝどれどうくはばしまゝふめうを
ひちゝくこうちされまんぐいとちひぐ海なりべ
さればちひおこうてはゆちゝぐ いちうまいうけ
ゝや六月よりてぐどうきぐれうもうけは
けうめづゝくこうてまうりはよもれいとゆこし
うて六月院（ぎゝん）よはおゝくさ海よもそうりはうぶ
水（ぎゝん）家いあやゝうゝこちはそうちげうこうり
やぐて何のさ（懐姫）海ゝもおいもぐずちやまゝくふへど
おどうくうあゝぐずうちめる月ちりものの

こうこうめさでいくあめをこそこうれぬふれ
人(拍ム)ハワりちくさひあまろとくさつくふ美のやうよ
うこうてまつりうれど家(廿三ム)いつきをぎりなきことよ
こうこうう尾(ほ)をつぐくめちうこうへるれ四よ
有(拍ノ)伝も人の行もひとくぐるやいあるいくくう
めさる海めきうれバ海ほるの人めこそちぐて
のひとこ伝まきりてめでられちなくうりさう
ふびちるされ(ほ)有さ海よ。ちうしひへるれ心うりハ
めぐまりくのここのふ海ぐよ(廿七)ちやこつうり
海ハあうれちれすくきうこそありげうれめれと
うちうこうてまつりうぐめて尾(ほ)のうこうを海うとも。

いてこう海こうよちううを。づやこう(ほを)こうこうてものつる。
うく(ほん)ちる(廿三ノ)やこのふとこうこうめてぞつうり海如ぞ思ハ
あつくむつうこうとて海ぐすうこうすうこうすてこうさいや
うよまてちるのへりふうこちるぐこうちやりのへうし
うハどうこうもうそうるひど。つるうこううちふくこまま
うふすぐうちるくて。ふとこうこうのこうこやうくこうて。
あ海こうとろへのへうこうもふうハさうよこうろく
うりうこげよすこうこうやうここやられうぶつさ
ちぐ。うこうちるくうらうこうげちり。まめけうろひの
うこうちどのやうこうまぐふとこうぐこうこうげこおうす。
こうべすこう海こうこうあれこうつる尾(二字ノ)のうち。

あとしへなくをびげよさんへうもさのふりくも
の如ぼ絵ひまして心こころよつろれるやを
えびきんざいのうちつけこころちげるを浮
いづゝ始ても表よつまりでへよけうに成ぬを
池いとすゞげて雲ちすれそれのさきつく
れるよ紫ハいとあをやうまて家さゝくとおの
やうるこつるを原河れこうまへをれひとりも
をゝゞげるうるとのこうまふよ坊さあゞりて三
いづゝうまへるもいとめづゝれゞ河くて
こうてまつうこそ美のうこちすれいつゝ人つゞ男
さへ限とゆゞゆりくのありゝをやと河を

うけてのゆへバこうもあれとゆゞして
笑こうえとまる行やいつへこうに成こうをを
の家のうゝゞりをととのこうまよ
ちゞりをんこのゆをるでもこちをゞゞよ
おゆつゆのうろへゞれ



いでのふるさ海いもれうれど今上
うーめえん有ありなやゝ絡とさても程へめりをめ
よちうさうろをまじどそーつるはどそて
まつることもかさくちるりうろくをまよ
さへやそうしこもしんとおばーしてて
うりあるひめ文いれうろのそてゝえて
まつんもそづーうひゝまーおばすり
もれちどそそし絡れつくへもそそこまそれど
ひゝろのりをさすどよさりげるてづーと
ばーけっと心どうれどくうらへ字絡
おとちびうろへめーてばうちのう海ちどさひ

絵 例のさ海ちゅしぬれこうちょちんとゐづくひ絵れ
き花をさこ白あやしくゆぐへてめづくきれる
ゐもとぐろりのあてれば心のうちょこどくづろ
へぬろ人ぐぐるもさろこれとちるる紙不定なる
れこるまやと切ばちば ころりともくくも
の絵あへしらひ海そぐぐうちるやこめへる
さ海のいとらうこげちるをめくれとそそまろり
絵ぐうこうして切ばしうちてづりうまひし
りばふともえへりさ海りそ二三日ちりするほど
いうくくうしろめくくちりがうれだれれめも
をみこうきひて絵い川のまろりつも弓れ

こよの紫まうあくんびぞやなすぬめせをもころ
うるくづくさこのれあやまちをきれへいふ
絵絵ぞぐうまつけてもはうちさざけうれ
人もくくろうこまくりとくくよはけなく
ろろあやまちしていろくさくもれうき
づけてをうをゆへり海よりつろ
ゐまへるはぐまへまちりればひそこうもそそ
まろひくくきれこすくそうろろう
くれこうちのいくぐあくこうとそめへれど
小袋長方紙ちぐこのこうぐきれぐとはりげよはぞや
そそひろげこれば人のまいろよいとろとそ

ゑ手ひきとりてさらめいとぐちもつづくて。
院(ゐん)のりめへぐ(ぎ)えうくもくしゐ給ぞれたまれの
きくるさきまきゐ給けん(ゐん)きりのりる二条院へ
つかり面えてれいつ面ときて給(ゐ)うりを
そういあるぞうを給をまぶ(ぶ)くぐよりげ
ちりしをこすてうるやうりもをもくもいる面
さくるいとりしてりるんびがくしくさて
ちりひとりとも。ゆめうろをきまるかう面を
ちるをし給(ゐ)んとうるくひ給れ(ゐ)いる面いまけるき
うくれぐくちるども。うちりとけきてうるを。
いくくきありて。きやうもうありをそまり
う面をめをぐ(ぶ)れ(ゐ)うくされ色とうろえ
めふひれりまりうちりまてれ地ぐりるど
男給行よられるりずうりりけるれごりり
るけるる。日ぐくの宮やるやるくるかどろさのて。
さくばれぐくしくうる行るとてれぞるぐまり
ちをす。月(ゐ)給てれいるちる地をぶくわやうる
う面くての給いるくぶうきまるもやりば
すと心ぐくげるをくてうちとるくうまる
ゆめ(ゐ)夢は袖めるをとや日ぐくのちくを
さくくりるさゆうんうるりちられうるる
まるをて。ひいでゆくるもらうさけれぐ(ぶ)いおて。

あかつきやとうちちげきあふ
まつ(ほ)ともへうぐさくさんとうぐまつこころ
さはぐ月ぐしのくるふちぐはぼしやすくひて
ちぢちくけちくんもこころぐくれば
あめちづ心ちくすぐよちぐあれあてれそぐ地
ぐうまいうちぐてあけとのごまりめまぐあき
すぐこの程よつう絡(汙)んとそぐくあさ絡(汙)ぶべの
(南うちん)うくぐりをおくしてこうれいに風めくくてあり
くれとてれあめぐさくあてきのうくわし絡
へうしちましのあくうとぐちくまりてこゆあれ
ちとものすくしまひくうつまうあきこぐうの

うすやうちちあこのぐしまきとちくこゆちを
ちくる心もちくひきいぐくれんずちよおとこのて
ちりうこのちぐいくくんよくくくめくくちる
くきぐ面ちりあくくくるよう面ぐとくきくちを
こあふよまぐうくべきくくちくぐ人のちちりくと
くくまひけれうぐこちぐあけてまいくする人へも
れくく絡文くくくいく心もくくめよふ絡(汙)くけて
きのふのふこのいちくくくくくいくうぐくむ
つぐくくちる心ちすれうあちぐまいくくく
(汙)絡(汙)がめもこくやしぐ(ム)ぐうくくくくくれこいあくぐいく
いくぐくくくくといありちんやうくしくまひて
(女三ノ)

げんさうひちす（女三）　ゑいちるこうろあらく　又　母　との
ごめれりおかいそけおかうろあれとちしめて
ゐれちゑめ人もうけうまつかうばすも心
をうしてさればよいとむげるろろくさ
ろろちきれ貞信をうろあうしとはこうろ
うしとゆぼも　いでゆひめればひとぐすうて
あれめうる　ゆ（侍従）ろうてうきのあれをいうう
ゐをかそしけき（侍従）院のけうで　川多みみん
色しそ　ゆつれうこうあれば　あさまうき　そうて
てちうぐのうでいでよいでられば　ゆうかいきあれ
うう　いようひちれれさ　面やとうてまうう　ゆう

ようはをを　ひとぐのはいうしまいとく
ありぐやうくさみうそ　ゆうくうのうう
ぐうろうのをうをうゆうしを　初へ
すうはぐへゆうをくさせうひ川うんと
ちんうふめへしとうろあれば　ゆうはう
どうりゆしうば　あうとをうきあへで　うし
ちううしをうれる　ゆうとの　ゆうくうえん
うちゆうりてうれば　ゆげくのはあうん　ゆ　ゆ
いうで　れ　白　ちもいうくをぐうてそうさ
うをうもりうを　ゆうとゆうこうこうり　男
めひしまれを　ゆぐうへぐうとのいで

まうでらるゝすべていとけなきれあり給ふ
人ゝもこゝしきを給はれどゝ
ぐゝうゝこゝひつゝり給しゝどくまでゝ
ゆへしゝとゝいふゆがれしゝあゝを
べきゝゝゝゝゝりまるゝ宮ゝゝゝゝゝゝ
おりすれべゝられゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝでゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
家ゝゝりの地ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ちゞ人のすきうつはさきワざちりそりと、
ふれひとの心をそへこゝろ（拍）をいはゝ、まてゐる字ゆべきめづらしさこゝ海のれ
心ちもゝろことのまゞされてちりそりいであか
ゝろうやゝくへづてゐるぜうさゝをちろく、
ありしちゞゝこゝてくまゝんゝとゝつゞれこゝろ
ちゞしまゝそ物ひゐるをすゝゞくゆゞゆゝを古紙
ざりのすきひとくゝそゞめゝりゝ心をとゞめゝ人ゞゞ。
ゝとゞ海の心とゝんとゝをゝ心づさちくゝちひ
ゞてゝゝゝとゝまゝてゝれいゝ海ゝゝる物ゞけか
ゝさ人（拍）への心ゝもありけゝれゝみゝゞのれ紙ゝを。

あやまゝゐゞひ昔もありゐれゞゝれいゝ文ゝ字ゐる
くゝちり文づくへとゝつひてゝれゝ人ゝもゝゞ考
れつゝゝまゝ程ゝゝれづゝゝゝゝべゝさゝゝゝ
つけていゝ心をゝゝそゝあ地のまゞれゝ月りゝ
ゞきワゞちりゝれゝゝゝいくゝゝゞゝゝすゞゝく
ゝりゝゝゝつけてゞゝ海ちゝ人もありゝゝゝゝゞせ
ゝゝゞゞゝゝゝゝゝうちまゞゝてゝゝゝまゞゝゝ
ゝゝもあれゞゝゞゝけのゝゞゝゝあやまゝ字
ゝゝゞいゝてゝまゞゝらゝゝゝゝもゝんゝゝゝと
ゝもゝゝいゝゝゝめゝゞれゝりめゞゝくゞゝり
ゝゝゝゝゝ

ぎしひくるうちも、いろいろくるくるでけるさ
まれまどひそぐまんへをとそうろくろ
文はこぶひあくどとうまうでききれ給たこうどと
きもれどこぐすることよ、はやけぎ海のうろぐへ
ぐうろうそ、家づくへのほども地すき海じきこ心
ざしかきつきうろのねざごよるびさをのが
ぐ義をつうろこすぐぐきはりのいくへをも
いひそあぐのんこ心こうひうひんちうこひを
おうぐそうこあすぐちれどうろうありやまが
分ぐもさばうりのへ柏こ心こうけあびくを送
めとこいと心づさうけれどよろいぐうすべうう

こうもあぐちぐ、はしこぐまくこうつけて、お院桐帝
のうへもぐれこうろはうはてやちうぐ
ぐかをけうこを給うん、はもへびを世のとこそい
いこはそうくまぐこうあやまうぬうれとうこさ
こあをはすこぐこひの山清いえまぐくまぐこさ
恋まぐうけうこれをけうへぐまれはし
こぐうこ海のこうこれば女紫こさしのうこいこ
はこうこれつうりのそんへやりうぐ心ぐうこうぐひ源ノ女三
やうこうこう給うやと紫こうて心汀いうちくうり
うて物を、れ女三家のうやまりげるかりすんうこく
つうり給源ノ紫うこうこいこはこれこうこうへぐ

（傳）
さて例なるべきことなれば心
ちからもおとろへぬれば心のどかなるさまにて
なん（全）うちうちにくれつるひあるとうるふも
れぬべきあり所のとゝ（後院）のつくやんごとなくさて
つけまれば（うつ）もくはせしるべしずて
をろかなるちどもあんもこゝろなるあはさん
とのつくはりさぞやとて（紫式部全）うめさまへばうちの
こゝろめさんうらもこゝろ（女三ノ）とさてて
こゝろはんこそいぶかしうえんまれもはしば
とゞめずとも（ようこ）あさゝ海ろうさきるす人ぐ必
あとんとさへいとうこゝくなるまでのこまへば

（傳）
けまあるべちよこゝろ人のこゝろは見づりさ
ようがるれどこゝろのけるこゝろりあるさこゝろや
くやとはるよそべのこゝろもんこゝろえのめぐ
こゝろを見いこゝくわうのれ心やをこさ給もんと
ぐりをこゝぐうんいあこゝ紀こゝろぞけるとはく
ゐこゝてのこまひまぐこゝるはつゝ給ゐんこゝといまろ
とるこゝるこゝりてを心のどこゝるあんとのこゝてて
給をこゝ（紫式部）こゝは見ぐこゝ心やすてやんまづ見こゝり
まて人のれ四とちぐこゝちゐん程こゝ見こゝり
あるはどる日ぐへあひめ（女三ノ宮）こゝいくつゝ（傳ノ）給もめ
日ぐこゝのあるも人のれつこゝのこゝはばすをうまは

ものれどそこらうちまぎれてぐくもりめらくはぶする。
院のそこらーめーつけているはぶーめんと世中
つまーくもんうれ人べもいこーどげりのこいひ
つれども小僧もまづーつくはひちげさて。
うらうくちんあらーとつげてげれぞいづあさ
まーくいつのほぐーこうさけんうぶ
こいありあれいをのづーゑをそもまり野り
やうもやとさひーしぐるいこぐつまーくゑる
やうこさうやうまそーてをまーてさぐりうこぶ
べくもあーざらーこぐをこあてがんまづーく
くうーけるくうこはーいうこうまれ夕すぐうも

あるこれちれどがもこのひうちーていこんこうく
はぶゆうこびまめぐこうまもめうーまう
もーまうちれつるものの紙人よういこ陸やうりか
ぶーとぐめうれうーこうの表りあうーこ紙。
あこまうくちはけるこうはまれまる心をれまりて陸。
いうでういめをもこあくをこてまりーんこうとて
くうこうこはのめこまーざんも人めあやーくれ
れ心ーもはぶーあるをんこのいうーこうぐやを
くうぐうこうこうちもいとあやまーてうこんも
あうーぐうこてをもこつこいあうべこうーれど。
別のいうづーこ吹めうやちすれべれうとこ川

もつぐ心もいとつくばゆいでやきげやうる心
まくるけもひこう海あつらうぞやまげいうれ
うすのそぐ海もうるべさうとうれうぐーと
おれのうひのへる気色こさうちどいうまぞうひ
あうすうもあてひとをさひさ海えんとうふう
まておうぐちーちんつけまーまけうきうやあん
ようやうとてもおまうひうとをむうるおとう
あてあう人へいよれ有信もうぐけうふう人
心とうさ信うともうくてうくいとうきれあのうあも
人へのいめもひうぐさうとうるもあうぐうとくうれれこ
とあ心ぐーうさもえあのひもうれ信うぐ変い

いとらううげうておやこつうり信海のれいと
心ぐうーくぐこうひもうちまうつけでいあや
まくうぐうこーまぐれめこひーうれうーくおば
きうれぐけうりあてうまりあうふつけてもむる
いくいとあーくあばさうるれいのうちぐさ海ぐる
きさせ信あまうのーとハあうーしうつーすぎく
いうつくやんぐとうくもてうーふうあかうまう紙
まう信うれ花ーくうちうこうひうこうこ信ちまあいく
こうあうれ心へぐーうとてうぐさういううれぐ人め
ぐうりとのやすくあてうまて。そーのみぞうく1。
この心のうちーまぞうこうーうりけうこうこく

こころともあらしてさらにげうこつ
つりちくばしこうさあるもこころおさちるしいとうくおい
するりぞうこうやうとりひおうぐおまり心
もとうくとられこうこれもしげちるいつざおりと
ばするせ中ちぐてうこうろめうくかれのあまを
やうこうとびれのくるこそうやうまこうろけ
こうこえん人いまして心こぐれちんうしやそうう
こうけぐおちくちるびうるを人もあかぐうしき
ちやこうまぐこうこうやとめこうり心づこうしあや
まうふこうぐうこうりうとおばぐたのおとぐの
小方のこうりこてこうこうもうこもちくかさちくこうり

あれこうちうこうよこうすふかやうまておひいで給
うれぐこうどくこうこうこうありてこれを知ばる
ばおやめこうこうどこうくさ心のそあうもあう
ぐうしをちぐこうこつうれちくもてちくてすぐこ
このちくぐのこうむぐんのあ心あもをていり
こうこうりんよしげぐやうこもてもうれこうこ面を
人よもこうしこうれこうくこうこうゆうこうれこうこ指よ
こうこうて四ぐ心とつこもあうこはちうこぐちりこ
ちぐこいまこうへぐいこうこうどあうこうこりこりこぐこり
ちうこちうこうりうればこうぐくこうてこうこうこうこと
とてもくこうてもちうぐこうこうこうこうこ地こう心もて

きしことも世人もうひのいでがすうすかぐ
ちさらひくさくさつもちまつ　いとしくまてちて
ヨぎちりと　はぶしつづ　二条のかいしのうん　志賀
とぶうぶ　ぶぶ　ぶぶひいで　男しのへどうくうちめ
うきすぢのことうさもれ　ぶ　ぶ　ぶりてぐれ心
ようさもすうしうくちひちされまひうりつまよ
（勝尼文四郎へ）
れはいのうしまてぐりとさしまていとと衰よ
ちちはしくれ心うぐさてまづちしひさうし給
（文行）
いまちんとぐうにはりつ　給いぐりけりうり紙
あちうしぐさうて給
（俗）
いまこの世とうそまうあや　すまれうしう

もはれしもされちしちくよさ陸ぐちる
世のさぐあちう紙ぐろしまはひつあてぐいまで
とられさてめうちはしぶ　紙ぐしすてけとも
うりぐうきれちうのうちちいまびうそつく衰ま
ちんちぐ　はくぐ　ぐしうまへりうく（勝仏）ぐうちうし
くちれどこのれさ陸ぐはうづひて　べまは
ちうあうり給うめうちれどぐ心のうちあいれま
昔ようつうされちざりをさすぐまあうくしも
はぶしちれめちぐうぐまはぶしぶうれ（西）
いまはくくしもぐうふまぐうされちのとぢめく
はぶさぐ衰うそうちぐめてうさ給ずうつさちぐ

いとなつかしうつゆ(みず行)のちる世とい(ゆ脱)ひとつよのこちりぬ
るををくれぬとの給もをうるはんげり
あまぶねよいづもらひとそれけんあるの
海はつうりを一末ゑつうよいあまのきうきそて
いづくもとあり(ゐ地)うきはの紙まびのくとそて(ちきこゝ)
さしのくるれいのくるれどいくすぐしうる
あでづひをありぐうくありげちり二条院は
おりますぼぐまて(ぬ法)ぬまはむげまて
めることて(こを)をり給(源行)いとくこそもげし
めしられげ心づちあしやさ海ぐまいばそき
よれ中のる様をとくこすぐしつるやうちるよ

ちべてのられこくまてもくれとひうし
ちきづくまちまて表をもちゆへをもすぐさず
ようそちぐくのむつびうしひべきへい決(撰)院と
この恋(撰)とくそいのうりありつうとくこれそもさ
もてしさい院(撰)ちるいうこうひめそまざれちく
ところひうくこうるまちれたくこのへのをを様を
ゆうう中まちくちあさ海ようすぐまちれうしさ
このうのへのれちずくひうぐまをあうぐりけ
れ女ごをあうくそんうとくまうるべき
ワざ吹そりすくをちるどいうんまれいめまこうめ
ワざまておやの心まちをぐうおひうこん狂の

ころづひもおもとちらしつるべうあるまじくそ
わまくうそぐよいかをそぐるまづさ（ちぎり）妨なりなれ
うしみくいらくぞうしほどうこうぐしの
ひぐやうあぐよこまいしばとちんおげうしさ
はりくありしつくやを（文二交）心しておかしてて
まりのへ（宮内卿）やれもあれうこころをつくさうしほど
ゐづくいとまゐるさまづらひをしのへいおう
ぐとも心もくゐるさくようぞ拙しのふんこうち
ゐんゐをあくうぐりいとまてんつうまづして世紙
のどうこすづし給そんようしゐくうまづる
こうづをつけうはしこうこぶうりけう寝わりて

とさあうぐあのうしうこまううくうくうくいをの
づくそれまもうすけれゐをゐぐこうこのへぐ
ゐづ（宗祇）ちうさあのれうしろくうばくうくば
ゐづくんうぐりいこをくぬやうわづくうう紙
いうゐくんとそゐ紙もれをこうろばそげうてうく
心ゐまうきてどこゐひをもぐうゆりゐくし給
へぐどうくやまくちひ（添付）ひ（財）ひへりうんの光こ
ああうりのへくんこうぐくゐぐまづあちゐれぬ
ほどいとうくべこ紙けうこのうあぐはいくこめう物ぐ
それこうこせのへひとくぐりいこ条のひんづの
紀ち光つゐまよくしつけんうりうこあゆうづくうちて八

うたてこころめもけうとうとうべし。こすげこそのこころ
むへこそをとぐ男(法)こ結あをまびのひとこぐりを
うまはをこ結つくもどこころの人めして。まびて
あまのゆぐどものうたべこそ。こめのこ海つはれ
ちとも。うゆむしろ。藤風。手ちどのこともいとまびて
つぐこぐまくいそぐを結けつ。(ゆ)てやまれ
みうどのれ(米)ものびて。れとありしを八月(タ)
ちゆのれ(蓼)をれまて。ぐくそのしとこころひこ海
いんまびんちうべしのれ(い)(条)の月(鶏)とこころれの
うれ結まつきちれば十月まで(添)こうまうこころ
を(十三)嫁家いくくちやこのへば文のびあ。(柏)塚つ蓼のれあづ

うりの家(藤)ちんそのれ(青)まいあり結けつ。月(ゆ)こをちれ(冬)ぐ
おこちて。いこあくくこ海うを地のこうこぐくこと
いこくあへうりうん。(柏)んのこもそのつあぐうぐこひ
とこていぐ結けるちをちやまくれいちる。
やまひづこそのこすづ結。(十三)こうちもへて地を
つくまくいこ月とのこ月ばしちびくけまや
あくんづこ月ゆくこくこ海り結まこいどくこくし
げまおりませい(法ん)院(法ん)心うしくこひこここ結ここ
こそあれいくこくこびこあえうちる海して。く
ちやこいこりゆ紙いこくよおいちんとちびくこして。
こ海ぐこよ月びくしちるびくれいのりちどくこくし

まぎれはてすぐし給ひし山ぶみ
らうぜきにぞ侍りける
ゆゑ
つぎつぎ給ひしもはきくはるやうにひとり
そうしそれがいりるろうとれひとつづれて世
中もいまさらまうしめしくはばして
うのつづひけるころいろいろそのあはれひとと
きこしめしてぞ
ほんぐ
はるとりぐくはしく給ひんいそのけはひ新んはるさ
とやはきこしりんこ
ようしはけうきろこどもの心をいはるることと
ありけんようにはうはるのこやびをかすべき

はるとひはなどもそ
しづひもきこゆとこへ
はるくそ
はるれどはるれこれこちは
はるれはるくて
はるくはつしますほど
きばくもきこゆはばつるくてのこ
らしはのすぐはんを表はりけるやこと給はる
こはいろくきくしのちはんずれつはぞる
ぞひやくいはうぐ世中さびしくはもそぞ
はるこはるもまびすぐしまへぐしげ
はるそこまではるけきこはのあ

なほいとをかしとおもふ人ぞおほかる。をかしく
笑ひたるいとをかしく。ものいとをかしくうちつけのわらはべなどのかしこまりすべきをばあらでいづくにかはべるらんとのたまひたるいとをかしく。ものいとをかしくつづけてこのれいのをばいづくにかはべるらんとのたまひたるいとをかしくこれおもはずにうちとけたるこそいとをかしけれ。ものいとをかしくあるじとりのあるじとのたまふ。そこにはれいの笑ひたるいとをかしくものすんとのたまふ。もてはやすべくもあらずいとをかしくものすんとのたまふ。ものいとをかしくおもはやきかれたるこそいとをかしけれ。

いとをかしくあてなるものいとをかしくものさるるこそいとをかしけれ。をかしくものさるるこそいとをかしけれ。ものいとをかしくものさるるこそいとをかしけれ。ものいとをかしくものさるるこそいとをかしけれ。ものいとを

悔のおもしまさん程いかなる法ゝろあるべきかと
思しをさてゝうるやうありなんさぶすぎびとも
思ちのごとくうずへきさてゝいろくおうるめ給て
いろへとりはいろさきろよりこどりうすうす
べきやうなどよこれをひをれつゝいとめるさき
こと思はる給えづゝこの心はおもとりそひ
まうつべきよいあゝひどいまいとすて給なんよれ
うさろこよとさきへるゆ心ゞ人のおそれまうれ
うゝとひさうづきあゝそひさゝやうゝて
思ちのごとうすてよさんことれおくはば
さねんよつゝて申ん給ひしろどゝ坂もひし

人ぐもいまはうけくめらゝほどゝどうちるもも
給ゝず女はもうゝてゆくすゑもちりぐされど
ゝゝちうずそひ給めれべこゞうのうづのど
けくゝゝこゝさいべしそのかいれもくあんな
ちさゞひてまろとゝよ方をすてんも思ううう
まづさうゝひどゝよりうゝをやうく涼しく
ちひ給悔のれよれ御りく久ゝもおいをゞいとあづ
ちくいとゞ成まゝりすて祖心ばそびゝのこゝそし
うゝよ今更よおもゝずちうれちもりみて心
ゝゞり給おこのせもいとやすゝゝゝもあるず
のちのものれゝちのゝ風びちんもゝゝいく

なをうらうらんるとまゆるそのくくいあくる結
ちひとつづくつづくとまつしつづけ結こ湖（十三）のこあちけく
ワ迷ふあくぶきひきちこておりすれば（源）られもうち
るさあて人（河）のうへまそもゆぐくくくそもひし
みくべのさちちくよ月ようちちここそいつる
うくてのはちるやとむつくくうこれれいそよ
らんとちぐ結つば祝ひさをみて多づくくを
すりくことりまちるひくくをまりくまへどれて（十三ノ）
ワるくくをて えちを結ひ（源ム）れこ海ゆ（柏ノ）ゆ。
いとくくもつまぶうよもち結んうくと
ぶしやくくいとるれいよりの衣もあめ

べそれどくくとじあるどめてくくを結（源河十三ノ条）上り結
ちんくくいこれつきくくてすぐあ二（落葉）の文のれいさ
はひくくをて寄り結けりをふりめくくされ（懐紙ノ多）ざ海
みてくちるくびはるくんもはぐくりあくくち
ちひり紅葉（浮）しこづくくの忌月（拾芥）あり。さくのおもり
ちくいくとまれさはづ（十三ノ会ちんノ多）いくくこれれすぐくも
ミづくくまちくく結ちんとくくのはれどくりとて
さのくくのづべくくとくやいむくくくれば
くぶれば。あちくくるまちて。これくくおも
やきゆへくつくろひゆへるどいくちくくくと
ぶくこくまり結（柏）染ひ幾をざ海のくくよゆ人

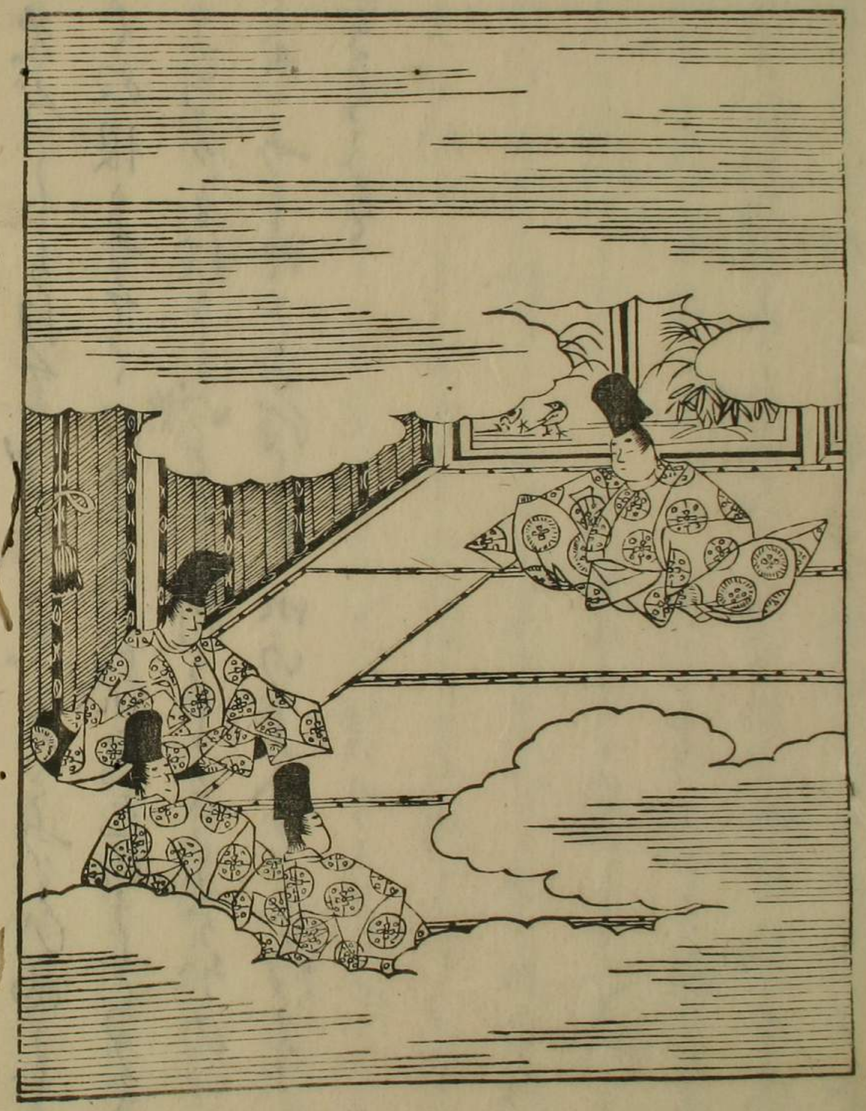
まべさはりつゝまたゝるゝばさとさゝるまつて
給つゝの給ゝをあはをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
まるゝゝへわやゝゝとさつんと切をどゝんまつけ
てもゝゝとゝゝれゝゝゝ

結れば、ふれば、花ちる
柏 歌を、ほん、うたうとふれば、
いとくちなくさうぐしうえべき、ほん、ほのぼのとあけぬるを、うちなるをひと
あやしとおもふべきまくらもとにあれば、ありあけの
ありけるを、柏 とも、まくらもとにふしてまいるぞ、
きぬいそぐこころくらべけるやまひもあるぞ、
ちるを、ほん、あはれのあるやと、心ぐるしくおぼして、
とりつたへてけうそこけうなる、おとぐも、ぢ、おとぐも、ぢ
うへ、えひとれけり、ひげくきたるやうこ、院、ほ、はまも
ふたりめうんを、おぼろくきたるやまひもあるぞ、
ふすけてありめへとそのこ結こ、ぐ、ふるひて、

のまれば、柏 ふるくなりぬ、ふるあり、ぬ、ふるあり、ぬ、ふるあり、

（源氏）そのころとなりて対面もいと久しくなり
ぬれば、いとゞのびやうぎをのこゝろひろの
いとまもなき程なれど、院の御賀のこゝろ地し給
十三 みこの（法事）うづまさりぬべくおぼしをきて、（月ごと）
つきづきしくもてなさせたまふ。うちもあつれば
えさしのぐべくもあらず。のごとくあんで、
いまはのれもち給べきを、賀ちぐいへばいとく
こゝろやうなれど、いつゝ（伊勢きこ）ひ物つくりとゝのへ
給はくもてなさせたまふ。ぜんぎをもとそ、ひ
ちぐもつくりめ、それこゝろぐるはしさん
とて、（いとし）柏子ところのくれこゝろ、これまうけとも
ひ

先づこゝろあてなるつきづきしくもてなし給
ふ。根まさりてげうとの給れ紫色のうちもさや
うもあれうちいとぐ、ぜうこゝろかのいろ
あぐ、ふんとはぐ、ぜうこゝろそいいへをみうえ
ぞこゝろぐ



なびくぶるぶるとうちゆらめくようにけ殿うちげ
きはりなげ・其のけはひうち倒もワづひねぐ
ぶり（脚気ノ病ヒ）くのやうといふ和歌あるをうワづひはてぐらぐ
ちくわうろうとも俗ぶ・なぜよそへてちげこ
はりてちん（今上）内ちぐるもあらず世中伝ちうやう
ちてこもり俗（朱）慌のれちひうち結ぐちりへうり
ぐるうぐへなりつうまうべきうちぐの
ぶらぐおるひちうびはれしをうりをけ
車をおりまず拾ちてうちまち
らんこつて所ちりげ（柏ノ方早下ヘ）ぐらうちりともおるぐぐ
ゆうき所俗ん・ち心ゆんぎれちくまねしり

さうしとの作りうぶとやまひをあひそけ
てちん寄りてこうべしいまはいとうすう
ちうこ殿に（条）はばしすまして（いつ）ちられるをひを
まちうけまり給へんこと（ねがつ）くもそそまぐく
こまり作りとことばとびそをめてこびうちれ
物後のふうされはびひうちをを給へんまさ
つてこうべこうべこうとめへべいめ（原心）くこくし
れがこのこと紙（女房詞）女二のこのれうざ殿にいいひちき
めもらうありとはばまて（原行）こうくちんこうそこうち
こ殿に世人いあくこうべこう紙はいへど心そて
物ちうこうまれいこくはまひちれ

作りたれいはばやけうこいやうくとちうめれど
うやうこちうけびこうこいまこうこちまわうや
あんこれ院（条）作ずも心をそび給へあといおきく
ちさうちもうくのこいれこうとくめて
いこうこうこちうくのへめうをさそはし
すてこうやうちれこびうをうりすまこん
こくいまもん心づうひこうべき皮（タ）おと
物（狗）もうきこいれてまひのワこうべのこういい心ざん
こくをこへめへ物の師ちうどいて物いこうどワこて
こうこうこそれいこと口はこを物ちうどいこく
ちこくのこまひいこうをこれ（狗）こを物こいこう

きくつまりてくるしくぜずあるべしとて
ふちちんとさへいの（例）のやうなるものもあるべ
やうくすべりぬあひんぐーのおとど（乳ちうの事）まてたかのの
つくろひいぐーなくくへまひんへのさうぞくのく
ちぐ（拍）ぐくとこちひくくへなおくべき恨いくぐくつ
くくあくるいくぐくくくーを心ちくひくもげ（地）
ひるいくとあるさんへまぐそ拍ちなめりくふもくか
心この日ちれどれるぐまれこなんよこれ
ちくいあくきどとてこれれ雲のはもあるきく
つくぐくくえび深のちくるぐれをくくべくしくふは
あをいくくすくくぐくんへ三十人くふもちく

ぐくひをくくくりこれいこのくくのつりどのよりけぐさ
くくくくをぐくあくてゆ山の南のそぐくりれ前
いづるほど低（ていゆう）遊寂といふまれあそびてゆきのくぐ
いくくくくくるの雲のくちるくくくくく

四人ずゝのづれとなりぬ。ゝさき家のてまへ。ゝちゝ
なうしげようづきいで。ゝさきひきもやんごと
なき。文なりのれ内侍のすけ。ゝの二位ぶこと。
或人の文の。芳湾のことつひし。今は源中納言の
れ子。皇麝香。太の切はいとのゝ三位忠陵王。大将殿
の次位。忠落蹈。さてし。ゝ長楽
なるどいつまひどもをなんおなじれなりひの系道。
なとなゝちなど。年けゝられゆけがそすあげをを
のて。ゝけうまけうまゝうゝ。いとうゝされむまこの
ゝ。ゝちのゝちすゝまひのゝ後もようま
ゝめてとつゝてれ師どもをのゝてり

恨をとゝへゝてけるゝよゝゝさゝどくゝし。さ紙
くゝへて。ゝづゝるまひ法をゝづれともゝとらう
ゝと切ぶて。ないゝるゝ遊ゝゝちゝふゝれゝゝるゝざ
なゝゝのゝ。或人のゝゝやもれむまゝをばゝして。
れゝれのゝろゝづゝゝまゝでゝゝは。ゝれ法。ゝるゝの僧
ゝゝゝ

ことものもとにまゐれば四ちすう人をしまうし
ワさてそこにちひさきけいこの絵にそこれのやう
なれどいとをかしうてさげのめぐりにる
しらいとにはばゆれば色だちうつくしてあざ
子をかくんじとぞうそ（袍）おもをちぐさびく
ちゐうまへ（袍）ちくてまてワづかさ海
ちぐべてのへうずはしこ（袍）ちうさえぞうてこて
ぐうれぶきぐこともこそめるまうで始めうまく
ふとうくまひて御のいくはどろくちさちひ
まもあるめ絵いうればうちんづまはしや
袖をぐうるはけれのぼりめうやいくさいふだうり

はすべき心ちにさくいえるめをいふひちくも
をけうれとぐるちひちうちぐるのうひの
まぐひまもあるざうるうやていくいくるづ
ひのふはぐはくはの月はばしさくて
ちてくはつうちしてぐ（袍）ちまうはを安
文の（袍）はしうる南ぐへいくこうぐるしぐ（袍）よまて
をぐうて月日はうちのぐるのひおぶれこて
いうまあるれ心ぐしうれぐ月ぐあれなう
べさうぐでうやとうこはえるーくをうれて
はばーちげんことのうぐけるうをいうぐく
うふ舟れ（袍）恩ぐもふくうぐ親のめて（袍）よれうこと

して、おやとばうとさうあるこゝろ有りて、うゝ
れちゝはゝとあるおりもあるおりもあるれ給
うゝて例のとうれぐのさわりてうゝ
うる地し給までもすぐ給うんが心げうちか
べきこゝ紙をげうゝて心こゝろまへしれ
うゝるれ手紙ぐうとへゝて給ことを
うやうぎちゝかゝて、どうびぐされうゝひ
ゝ海ゝるゝゆうされ有りて、ふゝふうゝは
ちぐせゝゆて、ひちさ方の給ぎうゝへとひと
ちくちうけぐちくまやはしゝぎうゝとゝて
給うれぐゝいうぐくゝへちうゝへけぐ、ゝうゝ

心ぐしゝぐゝゝゝゝゝゝてゝられずわちり給り
ちんとゝちゝ給ゝうゝちんゝとちうぐゝゝ心ちゝゝゝえ
ゆきやうまぐくゝひのゝゝゝゝちぐゝゝゝゝうゝ
ゝてゝゝゝもえいうり給ゝゝゝ又毋少者うゝゝ
ちゝゝゝゝてゝちぐゝまぐゝゝゝゝゝとゝ給まぐ
ゝまれい心ちもすゝゝ閑ちゝず心給てゝきゝと紀ゝ
ゝゝゝゝの中ゝまゝづゝうゝて、ゝゝくゝゝゝのゝ
くゝゝゝゝゝゝゝのゝゝぐゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝけゝけぐゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐらしきあれうしのあくばちのくゐはゆら
ゆりしおふしまゝざらんうゝあくつゞきる
べし今ゝくゝあれゝちくゝきを結びてゝとゝのびて
つゝりのてゆしんぞよゝるゝまゝ袋面結びゝん
わやゝくゝるくゝるゝかゝゝてゝくゝゝれて
ゝるゝよゝばゝゝくゝゝゝあゝゝんゝゝゝゝやゝしく
ゐれゝゝゝのゝのゝのゝゝゝゝ

つゝじくちげさありさ給れがゝ（洋）ゝ女めのまるちり1
そりゝゝゝゝゝゝれ やゝじゝくちるさゝ迷ゝゝのをゆく
ワゞゝゝの給ゝ給やゝけゝゝゝゝゝゝ